

- ・たまプラーザ駅南口から…徒歩約 5 分
- ・あざみ野駅から…徒歩約20分
- ・鷺沼駅から…徒歩約15分
- ・渋谷駅から…東急田園都市線(長津田・中央林間行)で、たまプラーザ駅まで約25分
- ・横浜駅から…横浜市営地下鉄ブルーライン(あざみ野行)終点あざみ野駅で、東急田園都市線(渋谷・押上方面行)に乗換え、たまプラーザ駅まで約30分
- ・羽田空港から…バスでたまプラーザ駅まで約50~70分

◆入学試験に関して
03-5466-0141 (入学課)

◆観光まちづくり学部について
045-904-7700 (たまプラーザ事務課)

〒225-0003
神奈川県横浜市青葉区新石川3-22-1
國學院大學
たまプラーザキャンパス

観光まちづくり学部についてホームページで紹介しています。



私たちが目指す観光まちづくりについて、いっしょに学んでみませんか？

観光まちづくり学部
ホームページ

Community Dreams

地域の

夢

ようこそ！観光まちづくり学部へ

3期生の皆さん、観光まちづくり学部へようこそ！

手探りで進めてきた新しい観光まちづくり学部も3年目に入りました。これまでに、新学部の教育のかなめである2年生必修の「観光まちづくり演習Ⅰ」「観光まちづくり演習Ⅱ」もスタートし、学生諸君と教員が一体となって取り組むグループ作業で成果を出すための協働作業も想定以上にうまく進んでいることを実感しています。

私たちが目指してきた新しい教育の在り方は期待から確信へと変わりつつあります。この勢いの中で、新たに3期生の皆さんを迎えて、教育研究においてもさらなるステップアップを図っていきたいと思います。

幸いなことに皆さん方には1年上、2年上の先輩がいます。先輩たちも新たに後輩を迎えることで、自分たちの想いを後輩にも伝えたいと思っていることでしょう。こうした環境の中で、観光まちづくり学部の学びの伝統が形作られていくのだと思います。地域に軸足を置いた観光とまちづくりを目指す本学部の活動は、ひろく日本全体を見渡しても新しい試みです。私たちはこれから新しい伝統を築き上げていく同志でもあるのです。

私たちがつくり上げようとしている観光まちづくりという学問は、地域の夢に形を与えることを目指す前向きの学問です。そのための知恵と技術の体系をとともに組み立てていきたいと思っています。そうした営みが地域に新しい息吹を育み、可能性を拡げることにつながるのです。住んでいる人にとって充実感が持てる地域は、訪れる人にとっても魅力的な地域のはずです。

その手がかりとなるよう、この学部ガイドブックを用意しました。ようこそ！私たちみんなでつくる観光まちづくり学部へ。

國學院大學 観光まちづくり学部

学部長 西村 幸夫



目次

P 2 学部の紹介

P 6 教員の紹介

P 8 大学の紹介

P10 カリキュラム

P26 学生インタビュー

P30 学びのサポート

P34 進路・就職

P38 地域マネジメント研究センター

P42 学内施設等案内

P48 地形図で見るたまプラーザキャンパス

P50 入試情報

P52 アクセス情報

観光まちづくりとは —キーメッセージを読み解く—

観光まちづくり学部 学部長 西村 幸夫

「地域を見つめ、地域を動かす」——これは私たち観光まちづくり学部が最初に掲げたメッセージです。では、実際に地域の現場で何をどうすれば、「地域を見つめ、地域を動かす」ことになるのかについて、4つの柱を立て、それぞれ2つずつのメッセージに分解したのが、次ページの図です。

4つの柱とは番号順に、地域環境、地域社会、地域経済、そしてそれら全体のマネジメントを表しています。4つの大きなアイコンが目印です。

まず1つ目の柱、地域環境に関して、観光まちづくりという視点でこれに接近する手立てとして「地域の個性をみつけ、みがく」ことを挙げています。さらにその下に、2つの小さなアイコンがあります。地域の個性をみつけるといことが地域の物語の読み解きとして示され、地域の資源を活かすことが地域を元気にし、ひいては地域環境を守ることもつながるのです。

同様に2つ目の柱、地域社会に関しては、大切にすべきものとしてローカルマーケットと、つながり自体のワクワク感を挙げています。地域の人々にとって元気が出るようなつながり方が大切なのですね。

3つ目の柱、地域経済については、地域内での経済循環、いわゆる地産地消の大切さと、レジリエンス向上の推進を取り上げています。

ここまでの3つの柱は観光まちづくりを進める際の基本となるものです。いずれが欠け

ても観光まちづくりは成立しません。そしてこれらは地域のサステナビリティを支える3本柱でもあります。

最後のアイコンが先述の3本柱を支えるマネジメントに関するものです。それは人材と仕組みづくりから成っています。多様な人材が世代を超えて結びつき、継続的に物事に取り組めるような仕組みをつくることによって、観光まちづくりがサステナブルなものになっていくのです。

観光まちづくり学部のカリキュラムも、これら4つの柱を中心に組み立てられています。専門教育の中核となる展開科目はⅠ類(社会)、Ⅱ類(資源)、Ⅲ類(政策・計画)、Ⅳ類(交流・産業)から成っていますが、この4つの類の構成は、おおむねそれぞれの柱に対応しています。そしてこれらを横つなぎするのが、必修の観光まちづくり演習です。地域の現場に出かけることによって、「地域を見つめ、地域を動かす」とは具体的にはどういうことなのかを体感するプログラムになっているのです。

観光まちづくり学部は地域に軸足を置くことによって、魅力ある地域づくり・魅力ある観光地づくりのエキスパートを育てることを目指しています。これが、私たちが目指す観光まちづくりです。

さあ、観光まちづくりから広がる世界の扉を、ぜひ開けてみてください。——そこからあなたの物語が始まるのです。

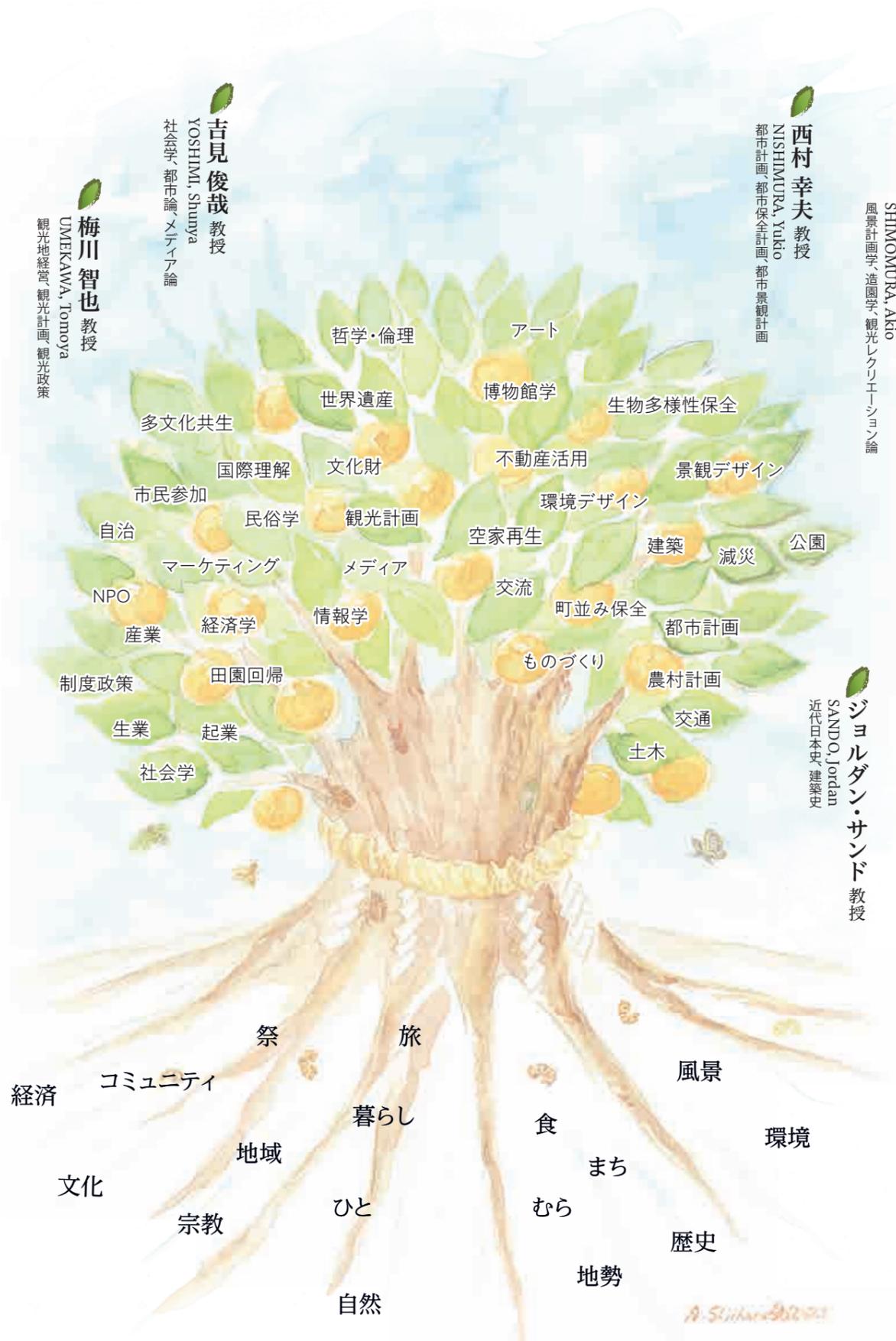
わたしたちが目指す「観光まちづくり」キーメッセージ——
「地域を見つめ、地域を動かす」



観光まちづくり学部・教員紹介

- 石本東生 教授**
ISHIMOTO, Tohsei
欧州の観光政策、文化観光
- 梅川智也 教授**
UMEKAWA, Tomoya
観光地経営、観光計画、観光政策
- 吉見俊哉 教授**
YOSHIMI, Shunya
社会学、都市論、メディア論
- 西村幸夫 教授**
NISHIMURA, Yukio
都市計画、都市保全計画、都市景観計画
- 下村彰男 教授**
SHIMOMURA, Akio
風景計画学、造園学、観光レクリエーション論
- 十代田朗 教授**
SOSHIRODA, Akira
社会学、都市・地域・国土計画、観光計画
- 下間久美子 教授**
SHIMOTSUMA, Kuniko
文化財保護、都市保全、文化財景観
- 浅野聡 教授**
ASANO, Satoshi
都市計画、景観計画、防災・復興まちづくり
- 楊惠巨 専任講師**
YANG, Hui-Hsuan
都市保全、都市デザイン、ランドスケープデザイン
- 大門創 准教授**
DAIMON, Hajime
都市計画、交通計画
- 黒本剛史 助手**
KURUMOTO, Takeshi
都市計画、建築学、都市保全
- 清野隆 准教授**
SEINO, Takashi
ランドスケープデザイン、デジタル・テクノロジーのまちづくり
- 南雲勝志 教授**
NAGUMO, Katsushi
公共空間に於けるプロダクトデザイン、杉を用いたプロダクトデザイン
- 石谷英生 教授**
SHIOYA, Hideo
観光統計、観光経済、旅行市場分析
- 小林裕和 教授**
KOBAYASHI, Hirokazu
観光学、観光イノベーション、観光DX、持続可能性
- 小林稔 教授**
KOBAYASHI, Minoru
民俗学、文化財保護論
- 河尻珍 准教授**
HA, Kyungjin
社会学、TV/コミュニケーション、PR
- 潘梦斐 助教**
PAN, Mengfei
文化社会学、ミニシアター・スタディーズ、近代アジア美術
- 井門隆夫 教授**
IKADO, Takao
観光経営論、観光マーケティング
- 米田誠司 教授**
YONEDA, Seiji
公共政策、観光政策
- 金今善 准教授**
KIM, Guemsun
地方自治論、市民参加論
- 藤岡麻理子 准教授**
FUJIOKA, Mariko
文化遺産学、歴史的環境保全
- 中川雄大 助手**
NAKAGAWA, Yudai
社会学、都市研究
- 稲葉あや香 助手**
INABA, Ayaka
社会学、文化人類学、メディア文化研究
- 楓千里 教授**
KAEDA, Chisato
地域の観光情報メディア
- 松本貴文 准教授**
MATSUMOTO, Takafumi
農村社会学、地域社会学
- 山島有喜 助手**
YAMASHIMA, Yuki
風景計画学、造園学、観光計画、都市緑地
- 劉銘 助手**
LIU, Ming
造園学、風景計画学、ランドスケープデザイン
- 丸山王国 助手**
MARUYAMA, Oukoku
都市計画、多文化共生
- 山島有喜 助手**
YAMASHIMA, Yuki
風景計画学、造園学、観光計画、都市緑地
- 仲野潤一 専任講師**
NAKANO, Junichi
AR/VR、メタバース、デジタルメディア
- 石山千代 准教授**
ISHIYAMA, Chiyo
地域デザイン、歴史的環境保全、観光計画
- 児玉千絵 専任講師**
KODAMA, Chie
都市計画、都市デザイン、ストックマネジメント
- 堀木美告 教授**
HORIKI, Mitsuho
造園学、観光計画、観光資源論

観光まちづくり



飯田町校舎(明治41年竣工)



國學院大學～その歴史と理念～ そして観光まちづくり学部誕生へ

國學院大學は、1882(明治15)年に創立された皇典講究所を出発点としています。そして、1890(明治23)年にこれを母体として「國學院」と称すこととなりました。

「國學院大學学則」第1条には「本学は神道精神に基づき人格を陶冶し、諸学の理論並びに応用を攻究教授し、有用な人材を育成することを目的とする」と規定されています。つまり、その研究・教育の理念は、諸学問を通じて日本の伝統文化を明らかにし、国や地域への貢献、国際社会の発展に寄与するとともに、自己の個性を最大限に発揮することのできる人材を育成することにあります。

國學院大學は、この建学の精神である「神道精神」(日本人としての主体性を保持した寛容性と謙虚さ)に基づき、その学問の基礎を日本の伝統文化を探究する「国学」に求めて、多種多様な諸学問による研究・教育を行い、明治・大正・昭和・平成と、様々な分野に多くの有為な人材を送り出してきました。

1985(昭和60)年、「たまプラーザキャンパス」を設け、平成に入ると、2002(平成14)年の創立百二十周年を期して、「國學院大學21世紀研究教育計画」を策定し、渋谷キャンパスの再開発、人間開発学部や研究開発推進機構の設置を行いました。

そして令和の時代。創立百四十周年を迎えた2022(令和4)年4月、たまプラーザキャンパスに新たに「観光まちづくり学部」が誕生し、さらなる発展をめざしています。

新しい学部での新しい学びを通じて、自己の個性を最大限に発揮し、地域を、そして日本を引っ張っていく人材になりましょう。

三矢重松教授の授業風景(大正5年)



こくびょんと観光まちづくり

「こくびょん」は、國學院大學の公式キャラクターです。学生がデザインしました。

『古事記』の中の神話の1つ「因幡の白兔」に登場する白いウサギがモチーフで、耳には榊の葉を飾り、首から勾玉をかけています。頑張り屋さんですが、マイペースな性格です。入学式や卒業式などの式典や、オープンキャンパスなどのイベントではキャンパスに現れることもあります。「キャンパス内でこくびょんに出会うと、その人に良いことがある」ともいわれています。

観光まちづくり学部のこくびょんもいます。地域に出かけ、地域を見つめ、地域とともに考え、地域を動かそうとする意欲をみせています。



新石川校舎(昭和60年)



たまプラーザキャンパスの歴史と環境

たまプラーザキャンパスは、1985(昭和60)年に八王子分校舎から移転した新石川校舎が始まりです。その後、1992(平成4)年から授業が始まり、2009(平成21)年には人間開発学部が開設されました。そして、2022(令和4)年、国内の大学ではほぼ唯一となる観光まちづくり学部が開設されました。

たまプラーザキャンパスは、高尾山麓から連なる多摩丘陵の一角にあります。キャンパス内も教育棟のある高台、球技場などのある窪地からなり、台地や丘陵が連なる横浜ならではの地形を実感できます。キャンパスには桜の古木も多く、桜の名所にもなっています。

また、東急田園都市線たまプラーザ駅より徒歩わずか5分という好立地にあるいっぽうで、周囲は閑静な住宅地となっており、キャンパスも緑豊かで穏やかな空気に満ちています。

この至便かつ落ち着いた雰囲気は、観光まちづくり学部のキャンパスにふさわしいものといえましょう。

中庭から若木21を望む(平成14年)



新石川とは

キャンパスのある新石川は、東急の土地区画整理事業で1979(昭和54)年、元石川から切り離されて誕生した地名です。この元石川には、古代・平安時代には「石川牧」と称する牧場が設けられており、毎年10頭の馬が天皇に献上されていたとされています。中世・室町時代は、「石河郷」と呼ばれ、いくつかの寺院の寺領であったようです。戦国時代の北条領を経て、近世・江戸時代には「石川村」と呼ばれる農村となり、米や麦などを作っていました。明治時代に入ると、稲作・畑作に副業として養蚕が加わり、さらに大正時代からは東京や横浜などの都市部に出荷する野菜の栽培も盛んになりました。

元石川の地名は、1939(昭和14)年に横浜市に編入される際、同じ市内の石川町と区別するため付けられました。「石川」を残すことを住民が強く希望したといわれています。その意味では、たまプラーザキャンパスは「石川キャンパス」ともいっていいかもしれません。

観光まちづくり学部の理念・学位授与方針

観光まちづくり学部では、地域に対する深いまなざしに基づき、地域社会の現状と課題を理解し、地域資源の保全活用と地域を動かす様々な人々の連繋によって、地域を主体とした観光や交流を促すとともに、活力あふれる地域を実現できる人材を養成します。

そのために、社会、資源、政策・計画、交流・産業に関する知識・技能を身につけ、地域の実情に応じた将来像を構想し、多くの人々と協働しつつ、よりよい未来へ向けての計画や提案を行い、実装に向けて行動できる意欲と能力を有した人材を養成するための教育を行います。

学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)

【知識・技能】

- DP-A1 多様な現代社会を理解する深い教養を身につけ、観光や交流が地域にもたらす影響を多角的・批判的に理解している。
- DP-A2 地域の課題解決に向けて、地域をとりまく社会構造や社会意識の様態、資源の特性を理解し、観光まちづくりの方策としての政策・計画及び交流・産業に関する知識を身につけている。
- DP-A3 観光や交流を通じた活力あふれる地域の実現に向けて、具体的な地域の特性や課題を的確に把握・分析できる。

【思考力・判断力・表現力】

- DP-B1 学修した知識や技能を活用して、具体的な地域を対象とした観光や交流に関する施策の可能性と、それらが活力ある地域の実現にどのように貢献するかについて、理念と根拠に基づき自らの考えを述べるができる。
- DP-B2 自らの考えや他者に伝えたい事実について、その実証的根拠を明らかにして、口頭説明や文章、図表、造形物等によって表現し、適切に伝えることができる。

【主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度】

- DP-C1 社会の多様性を尊重し、様々な文化的背景を持った他者との共同作業や対話を通じて自分の考えを深めることができる。
- DP-C2 学修した知識や技能を活用して、現実の地域社会に働きかける実践的な態度で学ぼうとする。

以上の能力を身につけるために設けられた教育課程を履修して所定の単位を修得した者に「学士(観光まちづくり)」(英訳名称：Bachelor of Tourism and Community Development)の学位を授与します。



履修について

卒業に必要な単位

観光まちづくり学部では、共通教育科目を26単位以上、専門教育科目を74単位以上修得し、かつ全体で124単位以上修得することを卒業要件としています。自由選択領域の24単位は、学生が自らの興味・関心に基づいて共通教育科目、専門教育科目、全学オープン科目から自由に修得できます。

卒業要件

科目区分	卒業に要する 単位数
共通教育科目	26単位以上
専門教育科目	74単位以上
自由選択領域	24単位
合計	124単位以上

専門教育科目の履修条件

科目区分	履修方法	単位数		
導入科目	必修科目	4単位		
メソッド科目	必修科目	2単位		
	選択必修科目	4単位以上		
演習科目	必修科目	18単位		
	選択必修科目	2単位以上		
展開科目 44単位以上	基礎 26単位以上	I類 (社会)	選択必修科目	4単位以上
		II類 (資源)	必修科目	2単位
			選択必修科目	4単位以上
		III類 (政策・計画)	必修科目	2単位
	選択必修科目		4単位以上	
	IV類 (交流・産業)	必修科目	2単位	
		選択必修科目	4単位以上	
	発展	選択科目	12単位以上	

共通教育科目

- ・共通教育科目は、大学で学修する上でも生涯学び続ける上でも必要なスキル、社会に主体的に参加するために必要な知識やスキルを修得する全学共通のカリキュラムで、6つの科目群からなります。
- ・観光まちづくり学部の学生は、必修科目として國學院科目群の「神道と文化」と言語スキル科目群の「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」「英語Ⅲ」「英語Ⅳ」を履修し、選択必修科目として「第二外国語Ⅰ」「第二外国語Ⅱ」※を履修します。その他は、STEM系科目群から1科目以上を履修することが履修条件となっていますが、各自が自由に組み合わせる履修することができます。

※第二外国語は、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語、スペイン語の中から自身で選択した同一の言語を履修します。

國學院科目群	共通教育 科目	言語スキル科目群
STEM系科目群		シチズンシップ科目群
専門教養科目群		ライフデザイン科目群

専門教育科目

- ・導入期(1年前期)から基礎期(1年後期～2年前期)は、多様な社会のあり方に対する構造的な見方の基礎となる社会学の学びと、観光や交流が地域に与える影響の多面性や地域に働きかけるまちづくりの基本的な知識と考え方を身につけます。
- ・発展期(2年後期～4年後期)には、学生の興味・関心及び希望する進路に応じて、観光まちづくりに関連するさらに多様な分野の応用的・実践的学びへと深めていきます。
- ・導入期から発展期までの4年間を通して、演習科目が開講され、学修した知識・技能を統合し、地域における観光まちづくりに貢献する実践的な力へと結びつけていきます。

図：専門教育科目の構成と開講年次

		1年次		2年次		3年次		4年次	
		導入期		基礎期		発展期			
専門教育科目	導入科目	●社会学概論 ●まちづくりと観光							
	メソッド科目	●社会調査法入門		●統計分析の基礎 ●プログラミングと数学基礎	●パブリックデザイン(地域と公共空間)	●質的調査法 ●データサイエンス ●プロダクトデザイン(地域と杉)		●多変量解析 ●地理空間情報分析	
	演習科目	●導入ゼミナール		●基礎ゼミナールA	●観光まちづくり演習Ⅰ(調査手法) ●基礎ゼミナールB	●観光まちづくり演習Ⅱ(地域分析)	●観光まちづくり演習Ⅲ(構想・提案) ●専門ゼミナール(通年)		●卒業研究(通年)
	基礎	I類 社会	●文化社会学 ●コミュニケーション論		●地域と環境の社会学 ●グローバリゼーション論				
		II類 資源	●地域資源論 ●博物館概論		●保全生態学概論 ●民俗学概論 ●都市建築史				
		III類 政策・計画	●公共政策概論		●地方自治概論 ●地域デザイン論 ●国土・都市計画論 ●都市と地域の交通				
		IV類 交流・産業	●観光学概論 ●観光マーケティング		●観光政策・計画論 ●観光事業論				
	発展	I類 社会			●ジェンダーの社会学 ●都市とメディアの社会学	●観光社会学 ●コミュニティ論 ●NPOと市民社会	●文化人類学		
		II類 資源			●風景計画論 ●レクリエーション計画論 ●地域文化創造論 ●地域遺産論	●文化行政・文化財行政概論	●自然/環境保護行政概論 ●世界遺産論		
		III類 政策・計画			●行財政概論 ●まちづくり論 ●農山漁村論	●住民参加と合意形成 ●都市保全論 ●交通計画 ●地域防災論	●リノベーション論 ●アートと地域振興		
IV類 交流・産業				●観光行動論 ●ホスピタリティ・マネジメント論 ●旅行産業論 ●宿泊産業論 ●地域の観光情報メディア	●観光地経営論 ●観光食マネジメント論 ●世界の観光政策	●観光経済論 ●田園回帰論			
トピックス科目		●経営学概論	●運輸・観光実践論 ●ソーシャル・イノベーション ●地域ブランディング論	●観光まちづくりインターンシップ(通年)	●不動産投資論 ●観光危機管理論 ●文化芸術政策論				
関連科目	●哲学・倫理学	●地理学概論	●神道と環境Ⅰ	●神社ネットワークⅠ ●地域と都市の経済 ●観光心理学 ●博物館教育論※ ●博物館資料保存論※	●博物館展示論※ ●博物館情報・メディア論※	●博物館経営論※ ●博物館実習A※	●博物館実習B(通年)※		

太字：必修科目 ※博物館学芸員課程

導入科目：観光まちづくりの専門教育への入り口

観光まちづくりの専門教育への円滑な導入を図るため、社会学の基本的な理論と、観光や交流を通じたまちづくりの基本的な考え方を学ぶ以下2科目を導入期(1年前期)の必修科目としています。

社会学概論(1年前期・必修)

人間は、社会的存在である。私たちは社会の中に生きているが、社会のことをどれくらい知っているのだろうか。社会は、個人間の相互作用から、家族やコミュニティのような集団・組織、さらには国家と国民の関係に至るまで様々であり、その範囲も非常に幅広い。社会学は、このように広範で複雑な社会の現象を分析し、その構造と変動を明らかにする学問である。

この科目では、社会が人々の行動や思考にどのような影響を与えるか、また、社会構成員はそれにどう反応し、社会を創り上げてきたかを理解するために、社会学の基礎概念、理論、手法を幅広く学ぶ。「近代化」という共通の問いを念頭に置きながら、各回では、政治、経済、技術、文化の諸要因とともに、家族や地域社会、都市と農村、個人の日常生活がどのように変容してきたかを学ぶ。それを踏まえ、社会を多面的、かつ批判的に捉えるための思考力を身につけ、社会の問題と向き合い、より良いあり方を考えるための手がかりを模索する。

まちづくりと観光(1年前期・必修)

観光まちづくり学部が目指す観光や交流を通じた持続可能な地域づくりへ向けて、「地域を見つめ、地域を動かす」ための基本的な考え方と複眼的な見方にふれ、これからの4年間で学ぶべきことの見取り図を得る。

前半では、「まちづくり」と「観光」に関連する基本的な理論と議論を通史的に学んだ上で、首都圏の宿場町や地方の大都市・中小都市等の事例をもとに、「まちづくり」と「観光」双方の出発点及び接点となる「地域の個性」をみつけるための基本的な考え方と見方にふれる。

後半では、「まちづくり」と「観光」の接点が豊富な都市観光地、町並み観光地、温泉地、農山村、自然観光地等の事例をもとに、それぞれの地域が抱える課題と背景を踏まえた上で、「地域の個性」を守り、磨いていくための基本的な道筋と方法の枠組みにふれる。そして、「まちづくり」と「観光」に関わる主体と取組の多様性に気づくことを目指す。

メソッド科目：観光まちづくりの実践を支える調査分析手法やデザイン手法を学ぶ

- ・観光まちづくりの実践に不可欠な社会的な調査手法と、具体的な地域を対象とした分析技術やデザイン手法を身につけるため、以下の9科目を用意しています。
- ・導入期(1年前期)の必修科目として「社会調査法入門」を履修した後は、学生が自らの興味・関心に応じて、2科目4単位以上を履修します。
- ・専門ゼミナール(3年次)や卒業研究(4年次)の所属ゼミやテーマ、自身の進路等を視野に入れて、積極的に履修することを推奨します。

1年次開講：社会調査法入門(必修)／統計分析の基礎／プログラミングと数学基礎

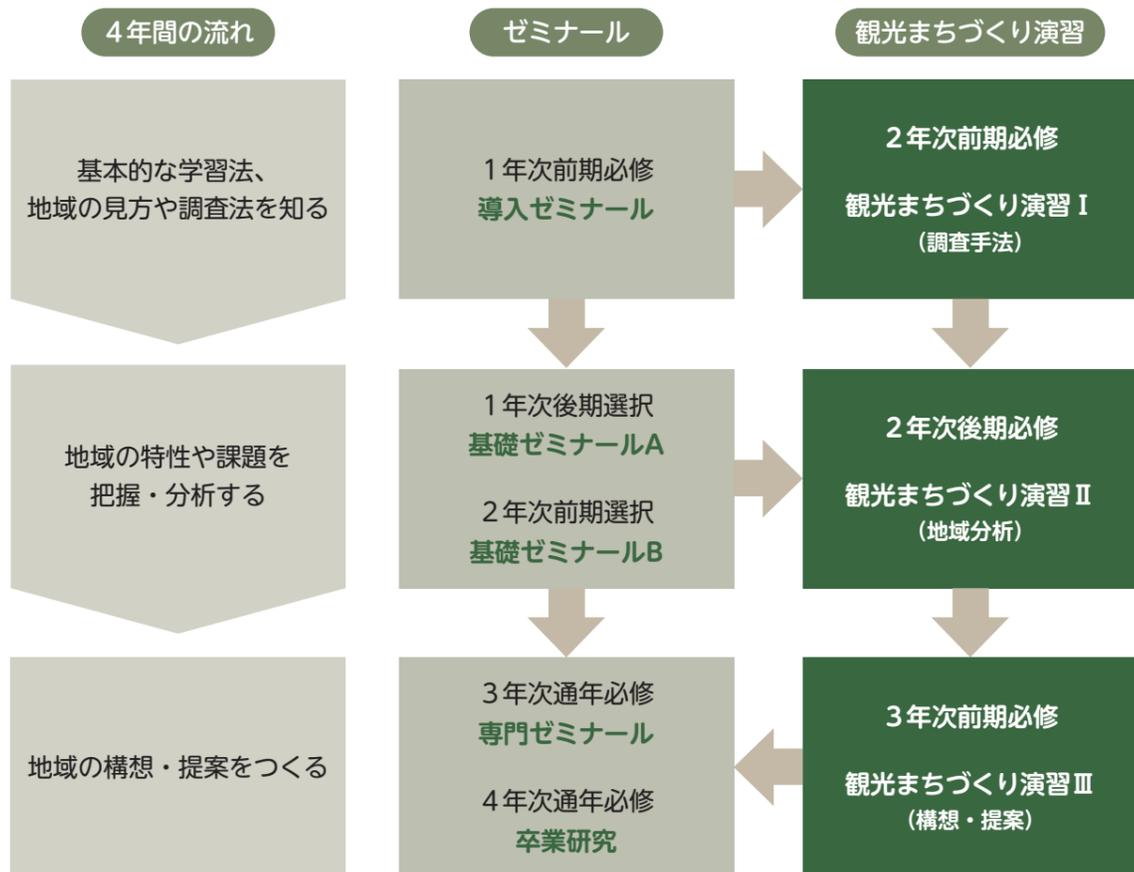
2年次開講：質的調査法／データサイエンス／パブリックデザイン／プロダクトデザイン

3年次開講：多変量解析／地理空間情報分析



演習科目：課題解決型学習で観光まちづくりを実践的に学ぶ

- ・演習科目は、各専門分野の個別知識や技能を統合的に活用し、学びの段階に応じた課題解決型学習を通じて、実際の地域へ「提案」を行う能力を実践的に身につけていきます。
- ・各専門分野の教員による少人数教育のゼミナールと、グループワークを重視した観光まちづくり演習で段階的・継続的に学び、4年間かけて必修6科目18単位、選択必修1科目2単位以上を履修します。
- ・観光まちづくり学部での学びの集大成として、3年から4年次にかけて卒業研究に取り組みます。



展開科目：観光まちづくりに関わる多様な専門領域の学び

- ・観光まちづくりに関わる多様な専門領域の知識を身につけます。
- ・I類(社会)、II類(資源)、III類(政策・計画)、IV類(交流・産業)の4分野から構成しています。
- ・基礎期(1年後期～2年前期)には、4分野のバランスのとれた学びによって、観光や交流が地域にもたらす影響の幅広い理解と、観光まちづくりの方策に関する基礎的理解が図れるよう、細かな履修条件を設定しています。
- ・発展期(2年後期～4年)には、より深い社会構造や観光まちづくりの具体的でより専門的な方策への理解が図れるよう、学生自身の興味・関心に応じた選択的・主体的な履修を重視しています。
- ・2年前期までに26単位修得を目指し、卒業までには44単位以上を履修します。



I類(社会)：地域を取り巻く社会の構造及び社会意識の実態や課題を学ぶ

- ・I類(社会)の科目では、現代社会の構造と意識、未来への課題に関する理解を促し、大都市から地方農村までの異なる地域で生起する社会・文化現象を、歴史的背景を含む多様な社会的、産業的、政策的文脈の中で位置づけることができる能力を養います。
- ・基礎期には4科目を開講し、2科目4単位以上を履修条件としています。
- ・発展期には6科目を開講します。各自の興味・関心や希望進路に応じて履修してください。

【基礎期】

1年後期開講：文化社会学／コミュニケーション論

2年前期開講：地域と環境の社会学／グローバル化論

コミュニケーション論(1年後期) \\PICK UP!\\

私たちは、常に誰かと何かについてコミュニケーションしている。日々実践しているこの「当たり前」な営みを、社会学的視点から捉え、主要概念、理論、歴史、具体例を学ぶことで、学問の対象として理解する。コミュニケーションは、自我と他者、個人と社会を結び相互作用を生み出し、その様相はことば、文字、映像など、多様である。集団と組織における異なる文化や価値観を媒介することも重要な役割の一つである。

前半では、コミュニケーションの原理を理解するために基礎概念を整理する。後半では、メディア社会/大衆社会の中でコミュニケーションがどのように発展してきたかを学ぶ。現代社会を形づくってきた様々な専門分野の特徴を、歴史や具体例を通じて知ることで、よりよいコミュニケーションのあり方を考える手がかりを理解する。

地域と環境の社会学(2年前期) \\PICK UP!\\

社会学の中でも地域社会(コミュニティ)の仕組みや、社会と環境との関わりに関連する領域である、農村社会学、地域社会学、環境社会学の基礎的な考え方について学び、これからの地域社会による環境(山、川、景観など)の保全と利用のあり方について考えていく。

その際、「生活」という視点を1つの軸とし、地域住民の生活との関わりに重点を置く学説や実践事例を中心に学び、理解する。こうした作業を通して、ボトムアップ型の社会を実現するためにどのような仕組みが必要なのか、具体的に考えていく。

\\PICK UP!\\

当該科目区分内からの一部科目の概要紹介です。詳細及び他の科目については、シラバスを参照してください。

【発展期】

2年後期開講：ジェンダーの社会学／都市とメディアの社会学

3年以降開講：観光社会学／コミュニティ論/NPOと市民社会/文化人類学

都市とメディアの社会学(2年後期) \\PICK UP!\\

社会学はコンテクスト=文脈の学である。都市とメディアの社会学は、都会/都市を成り立たせ、変容させる歴史社会的文脈や、そうした都市の中でのメディア変容を文脈的に把握する力を育てる。

都市については、盛り場、ディズニーランド、オリンピック競技場、米軍基地などの空間を、メディアについては、印刷、電話、映画、テレビなどを具体的に取り上げていく。具体的な都市やメディアを素材として取り上げながら、それらにどう社会的にアプローチしていくべきなのかを学ぶ。

NPOと市民社会(3年前期) \\PICK UP!\\

人々の社会的必要を満たすモノやサービスは、営利企業が中心となる市場経済によってのみ提供されているわけではない。多様な行政サービスを生み出す政府も、家事やケア等を行っている家族も、そして地域や特定の社会的属性を持った人々のニーズを満たすボランティアやNPO、協同組合などの非営利・協同セクターも、人々がよりよく生き、生活する上で重要な存在と言えよう。

本講義では、多様なニーズや特性を持った人々が、それぞれの特性を活かして生きていける共生社会を目指す上で、市場経済や行政、家族、そして非営利・協同セクターがいかなるメリットとデメリットを持っているかを理解し、上記セクター間のいかなる組み合わせや融合がそうした社会の構築に資するものとなり得るのか、NPO活動の事例分析を端緒として検討していく。

Ⅱ類(資源)：地域をとりまく歴史・文化、自然など地域固有の資源のあり方と保全管理を学ぶ

- ・Ⅱ類(資源)の科目では、歴史・文化、自然など地域固有の資源を見出し、その特質を支えてきた地域の営みとの関係を理解し、それらを保全し磨き上げるための制度や方策、技術を学びます。
- ・基礎期には5科目を開講し、必修1科目の他に2科目4単位以上を履修条件としています。
- ・発展期には7科目を開講します。各自の興味・関心や希望進路に応じて履修してください。

【基礎期】

1年後期開講：地域資源論(必修)／博物館概論

2年前期開講：保全生態学概論／民俗学概論／都市建築史

地域資源論(1年後期・必修)

\\PICK UP!//

地域のまちづくりや観光を支える資源には様々なものがある。気候や地形・地質、動植物、そして各時代の政治や経済の状況などと地域資源との関係性を捉えるとともに、これらの変化と合わせて人々の生活や生業が移り変わる中で地域資源がどのように変容・変質してきたのかを具体的に捉えながら、「地域性」をもたらす様々な要因と、それを具体的に表す事象との関係について理解を深める。

また、地域資源の継承が求められている社会的背景や各地での取り組みの動向についても学ぶとともに、関係する制度・事業についての基礎知識を習得する。

民俗学概論(2年前期)

\\PICK UP!//

私たちの周りには、地域や家によって受け継がれてきた様々な民俗文化がある。こうした、暮らしに根ざした身近な文化に焦点をあてることで、自らの知見と照らし合わせつつ、日本人が持つ価値観とその方向性について考える。それが、民俗学が内省の学とも呼ばれる所以である。

民俗学の概説を通じて、その基礎的な知識を得るとともに、基本的な民俗の捉え方を養う。先人たちがどのような生活をおくり、どのような「生きがい」を抱いてきたのかを認識し、ひいては日本人の考え方や行動のあり方を見つめ直す。

【発展期】

2年後期開講：風景計画論／レクリエーション計画論／地域文化創造論／地域遺産論

3年以降開講：自然/環境保護行政概論／文化行政・文化財行政概論／世界遺産論

風景計画論(2年後期)

\\PICK UP!//

風景あるいは景観を計画・設計するという観点に立脚し、人間を取り巻く視覚像である風景を分析的に把握し、予測、評価する方法について学ぶ。風景・景観認識のメカニズム、そして分析から評価、計画に至るプロセスや手法に関する講義を通して、多様かつ複合的な視点をいかに整理し、客観的な分析と評価の対象とするかについて学ぶ。また、風景計画・景観設計の実態に触れながら、人々の生活と風景との関わりについても理解する。

風景の計画、形成に当たっては踏まえるべき原則と、風景に対する時代の志向や価値観、そして地域ならではの環境との関わり方に対する配慮が必要である。地域の歴史的、社会的、文化的背景と、形成される風景との関係について考える。

文化行政・文化財行政概論(3年前期)

\\PICK UP!//

本講義では、文化財を大きく有形の文化財(不動産、動産)と無形の文化財に大別しながらそれぞれの成り立ちと変遷、保護の仕組みについて概観する。

また、破壊から守るために社会の仕組みとは切り離されて保護されてきた有形文化財の現在の課題とは何か、社会変容の中で消えゆく人のわざや慣習はどのように残し得るか、文化的景観や民俗文化財等、保護の対象が人々の生活に近いものとなるほど、有形と無形、不動産と動産を截然とは区分できないのは何故か等、守るものの特質や性質によって異なる保護の考え方を理解し、比較を通しながら文化財と地域社会との関係を考える。

Ⅲ類(政策・計画)：地域の空間構造を踏まえた将来像の構想や働きかけに有効な具体的政策及び計画を学ぶ

- ・Ⅲ類(政策・計画)の科目では、公共政策や工学等のまちづくりに関連の深い分野を中心に、地域の将来像を構想し実装する政策・計画に関する知識や能力を身につけます。
- ・基礎期には5科目を開講し、必修1科目の他に2科目4単位以上を履修条件としています。
- ・発展期には9科目を開講します。各自の興味・関心や希望進路に応じて履修してください。

【基礎期】

1年後期開講：公共政策概論(必修)

2年前期開講：地方自治概論／地域デザイン論／国土・都市計画論／都市と地域の交通

公共政策概論(1年後期・必修)

\\PICK UP!//

地域をとりまく様々な政策の中でも、国や地方自治体における公共政策の根幹を理解できるよう、体系や制度についてまず学んでいく。一方で国民・住民に主権があり、政策形成にも主権者の多様な参加が試みられている。そこで、実際の公共政策形成プロセスや制度の運用、地域づくりにおいて、また主権者自体が試みる政策形成や事業展開の事例も順にみていく。そうしたさまざまな先進事例を検討することの中から、グローバル化の時代も背景とした、これからの公共政策のあり方について考える。

地域デザイン論(2年前期)

\\PICK UP!//

有限な地域空間において、住民と観光客をはじめとする多様な主体の幸せな共存を目指して、まずは、建物から敷地、街区、地区、都市、広域までの多層的なスケールで空間的・社会的デザインとプロセスデザインを考えるための基本的な見方を学ぶ。

そして、地域を取り巻く環境も人々の意識も激動期にある現代において、行政の縦割りや広域化等の弊害を超えて地に足の着いた地域主体のデザインを行うためのアプローチと技術の基礎を習得する。

【発展期】

2年後期開講：行財政概論／まちづくり論／農山漁村論

3年以降開講：住民参加と合意形成／都市保全論／交通計画／地域減災論／リノベーション論／アートと地域振興

農山漁村論(2年後期)

\\PICK UP!//

農山村の地域構造の原型ともいえる「家と集落(むら)の関係」を理解し、農山村地域が今日に至るまで直面してきた社会的諸問題を考えながら、その解決手段として試みられてきた地域づくりの展開を探る。

また、積極的に地域づくりを進める上で不可欠な視点である「地域経済」に焦点を当て、地域資源をもとにした産業基盤(とりわけ農山村地域の主要産業である第1次産業)への理解を深め、グローバル化に直面する中での地場産業の変化と課題、また対応する試みを学ぶ。漁村についても、適宜、関連する論点を扱う。

地域減災論(3年前期)

\\PICK UP!//

日本は自然災害の多い地域であり、地震、津波、火山噴火、台風、豪雨などによって大きな被害が発生している。このような自然災害から市民の生活を守り安心して暮らしていけるように、日常時から防災・減災まちづくりを推進することは重要である。また、このような取り組みは、一般市街地だけではなく、多くの観光客が滞在している観光地においても同様に重要である。

地域で求められる防災・減災・復興まちづくりに関して、防災・減災まちづくりの仕組み、一般市街地と観光地における防災活動、災害を引き起こす自然現象と発生する被害、過去の代表的な自然災害と復興まちづくり、新たな取り組みとしての地域協働型の事前復興まちづくり、たまプラーザキャンパスと防災・減災まちづくり、について学ぶ。



Ⅳ類(交流・産業)：地域を主体とした域内外の交流の在り方とその関連産業がもたらす経済効果を学ぶ

- ・Ⅳ類(交流・産業)の科目では、地域を主体とした域内外の交流のあり方や、そうした交流を通じて地域に経済効果をもたらす具体的な方策及び関連産業の枠組みについて学びます。
- ・基礎期には4科目を開講し、必修1科目の他に2科目4単位以上を履修条件としています。
- ・発展期には10科目を開講します。各自の興味・関心や希望進路に応じて履修してください。

【基礎期】

- 1年後期開講：観光学概論(必修)／観光マーケティング
2年前期開講：観光政策・計画論／観光事業論

観光学概論(1年後期・必修)

\\PICK UP!//

観光の歴史的発展を概観して時代とともに観光をめぐる環境や状況が変遷することを理解する。その上で今日の観光という事象を取り巻く様々な主体について、観光客の視点に加え、観光事業者や観光推進組織、行政など観光客を受け入れる地域側の視点、さらには観光政策や観光関連法規、観光計画といった政策実現の視点、そして国際的な観光を俯瞰する視点から広く見渡すことによって、今後4年間の観光まちづくりに関する学びの基礎を身につける。

観光事業論(2年前期)

\\PICK UP!//

観光産業は交通、宿泊、旅行会社、飲食、テーマパークなど多様な業種から構成され、世界中で約3億人が従事し、各事業は雇用創出など地域経済にも大きな貢献をしている。昨今、デジタルエコノミーの進展やSDGsへの対応など、社会的な変化や要請を背景に消費者が観光、旅行に求めるニーズも変化し、観光事業には事業変革による価値創出が求められている。
このような背景のもと、観光事業別にその経営の特徴や課題を理解し、中長期的な視点からあるべき姿を把握する。観光事業の役割や意義を理解し、地域の持続的な発展のためにどのような貢献ができるか考える力を身につける。

【発展期】

- 2年後期開講：観光行動論／ホスピタリティ・マネジメント論／旅行産業論／宿泊産業論／地域の観光情報メディア
3年以降開講：観光地経営論／観光食マネジメント論／世界の観光政策／観光経済論／田園回帰論

地域の観光情報メディア(2年後期) \\PICK UP!//

メディアの特性を制作プロセスと併せて学び、学生に身近なSNSが地域の観光情報メディアとしてどのように活用されているかについて議論する。
そして、地域における観光戦略の要としての情報発信の実態を把握し、課題を抽出し、情報発信者の立場に立って情報発信のあるべき姿を学ぶ。同時に、自治体のアンテナショップなどリアルな場が担っている役割や今後の可能性についても学ぶ。

田園回帰論(3年前期)

\\PICK UP!//

都市から農山漁村への移住という物理的移動だけでなく、都市住民が地方へ向けるまなざしの変化を含め「田園回帰」と呼ばれるようになってきた。一方、日本全体の人口減を受けて始まった地方創生施策の中で、都会からの移住者獲得に動く自治体が増えている。これらの田園回帰の動きと、プロセスとしての「関係人口」と呼ばれる多様な関わり方や関わりしるづくりについて全国の取組みから学び、特に「なりわい」「住まい」「コミュニティ」という具体的な課題を通じ、物事を多面的に考える力を養う。

トピックス科目：観光まちづくりの実践的な話題にふれる

トピックス科目は、観光まちづくりの現場や実務に近い分野で活躍している専門家を講師として招き、実践的な話題に触れる科目です。学習意欲の向上や将来の進路を考える契機として活用してください。

- 1年次開講：経営学概論
2年次開講：地域ブランディング論／運輸・観光実践論／ソーシャル・イノベーション
3年次開講：観光まちづくりインターンシップ(通年)／不動産投資論／観光危機管理論
文化芸術政策論

関連科目：観光まちづくりに関連するより幅広い分野の学び

観光まちづくりを学ぶ上で関連する他の専門分野や、本学独自の神道文化と地域形成について理解を深めるための科目です。また、2022年の博物館法改正も念頭においた学芸員の資格取得を目指す博物館学芸員課程も設けています。

1年次開講：哲学・倫理学／地理学概論

2年次開講：神道と環境Ⅰ／神社ネットワーク論Ⅰ／地域と都市の経済／観光心理学

【博物館学芸員課程の科目】

- ・博物館学芸員課程の科目は博物館法施行規則第1条によって定められており、博物館の学芸員資格取得のために必要な知識や技術を習得するため、以下10科目19単位を全て修得する必要があります。
 - ・「博物館概論」以外の9科目は、卒業要件に含めない科目です。
 - ・受講に際しては、所定の選考に通過し、資格課程費を納入する必要があります。
- 1年次開講：博物館概論 ※本学部では展開科目基礎(Ⅱ類・資源)に位置付けています。
2年次開講：博物館資料論／生涯学習概論／博物館教育論／博物館資料保存論
3年次開講：博物館展示論／博物館情報・メディア論／博物館経営論／博物館実習A
4年次開講：博物館実習B(1単位)

履修モデル

観光まちづくり学部では、観光まちづくりの体系的な基礎学習を基盤とした上で、学生の興味・関心や希望する進路に応じた履修が組めるように、以下の6つの履修モデルを作成しています。

これは、いずれかに合致させなければならないということではありません。ひとり一人の学生が、自身の興味・関心や進路を視野に入れて、主体的に科目を選択することが、なによりも大切です。

履修モデルA：社会や生活の調査・分析から観光まちづくりを学びたい学生 p.20

履修モデルB：歴史・文化の保存と活用から観光まちづくりを学びたい学生 p.21

履修モデルC：自然・環境の保護と利用から観光まちづくりを学びたい学生 p.22

履修モデルD：公共政策から観光まちづくりを学びたい学生 p.23

履修モデルE：空間づくり・計画づくりから観光まちづくりを学びたい学生 p.24

履修モデルF：観光関連産業での事業・経営から観光まちづくりを学びたい学生 p.25



履修モデル

A

社会や生活の調査・分析から 観光まちづくりを学びたい学生

- ◆展開科目Ⅰ類(社会)、メソッド科目、展開科目Ⅲ類(政策・計画)を積極的に履修します。
- ◆地域を取り巻く社会や生活の分析と計画や政策の分析・策定・実行のための能力を身につけます。
- ◆進路として、公務員、コンサルタント、ジャーナリストや、NPO、NGO、出版、放送、広告、商社、IT、金融など幅広い分野で活躍する人材を想定しています。

太字：必修科目、():単位数※無記載は2単位

	1年	2年	3年	4年
共通教育	神道と文化 英語Ⅰ・Ⅱ 第二外国語Ⅰ・Ⅱ 日本文化を知る コンピュータと情報Ⅰ 科学的思考法	英語Ⅲ・Ⅳ 國學院の学び 情報科学入門 政治と社会参加(NPO)		
導入	社会学概論 まちづくりと観光			
メソッド	社会調査法入門 統計分析の基礎	データサイエンス 質的調査法	プロダクトデザイン(地域と杉) 多変量解析	
演習	導入ゼミナール	観光まちづくり演習Ⅰ 観光まちづくり演習Ⅱ(4) 基礎ゼミナールB	観光まちづくり演習Ⅲ(4) 専門ゼミナール	卒業研究(4)
展開・基礎	[Ⅰ]文化社会学 コミュニケーション論 [Ⅱ]地域資源論 博物館概論 [Ⅲ]公共政策概論 [Ⅳ]観光学概論 観光マーケティング	[Ⅰ]地域と環境の社会学 グローバリゼーション論 [Ⅱ]都市建築史 民俗学概論 保全生態学概論 [Ⅲ]地域デザイン論 都市と地域の交通 [Ⅳ]観光事業論	[Ⅰ]ジェンダーの社会学 NPOと市民社会 観光社会学 文化人類学 [Ⅱ]地域文化創造論 風景計画論 文化行政・文化財行政概論 [Ⅲ]まちづくり論 農山漁村論 住民参加と合意形成 地域減災論 リノベーション論 [Ⅳ]地域の観光情報メディア	
展開・発展		[Ⅰ]都市とメディアの社会学		
トピックス		ソーシャル・イノベーション		
関連	哲学・倫理学			
単位数	42単位	42単位	40単位	

合計124単位

履修モデル

B

歴史・文化の保存と活用から 観光まちづくりを学びたい学生

- ◆展開科目Ⅱ類(資源)の科目を中心に、歴史・文化を主な対象として扱う科目を各類から積極的に履修し、必要に応じて博物館学芸員課程を履修します。
- ◆歴史・文化の保存と活用につなげていくことを目指して、地域を取り巻く社会の分析、地域の空間構造・資源の把握、計画や政策の分析・策定・実行、地域主体の交流・産業の創出のための能力をバランス良く身につけます。
- ◆進路として、歴史・文化の保存と活用に直接関与する博物館等の学芸員や職員、公務員、歴史・文化を有する地域の観光協会・DMO・まちづくり組織の職員、歴史・文化を活用した宿泊業や旅行業の分野で活躍する人材、上記に関する情報を集め、編集し、発信する出版、放送、広告等の分野で活躍する人材を想定しています。

太字：必修科目、():単位数※無記載は2単位

	1年	2年	3年	4年
共通教育	神道と文化 英語Ⅰ・Ⅱ 第二外国語Ⅰ・Ⅱ 國學院の学び 日本文化を知る コンピュータと情報Ⅰ	英語Ⅲ・Ⅳ Japan Studies 地球環境と人間 比較文化論Ⅰ		
導入	社会学概論 まちづくりと観光			
メソッド	社会調査法入門 統計分析の基礎	プロダクトデザイン(地域と杉)	質的調査法	
演習	導入ゼミナール 基礎ゼミナールA	観光まちづくり演習Ⅰ 観光まちづくり演習Ⅱ(4)	観光まちづくり演習Ⅲ(4) 専門ゼミナール	卒業研究(4)
展開・基礎	[Ⅰ]文化社会学 コミュニケーション論 [Ⅱ]地域資源論 博物館概論 [Ⅲ]公共政策概論 [Ⅳ]観光学概論 観光マーケティング	[Ⅰ]地域と環境の社会学 グローバリゼーション論 [Ⅱ]都市建築史 民俗学概論 [Ⅲ]地方自治概論 地域デザイン論 [Ⅳ]観光政策・計画論 観光事業論		
展開・発展		[Ⅱ]地域遺産論 風景計画論 [Ⅲ]まちづくり論 [Ⅳ]地域の観光情報メディア	[Ⅰ]ジェンダーの社会学 文化人類学 [Ⅱ]地域文化創造論 文化行政・文化財行政概論 世界遺産論 [Ⅲ]行財政概論 都市保全論 リノベーション論 アートと地域振興 [Ⅳ]観光地経営論 観光食マネジメント論 世界の観光政策 田園回帰論	
トピックス			文化芸術政策論	
関連			博物館学芸員課程(17)	
単位数	42単位	42単位	40単位	

合計124単位(博物館学芸員課程の単位は含まない)

履修モデル

C

自然・環境の保護と利用から
観光まちづくりを学びたい学生

- ◆展開科目からⅡ類(資源)の科目を中心に、自然・環境を主な対象として扱う科目を各類から積極的に履修し、関連科目も履修します。
- ◆自然・環境の保護と利用につなげていくことを目指して、地域を取り巻く社会の分析、地域の空間構造・資源の把握、計画や政策の分析・策定・実行、地域主体の交流・産業の創出のための能力をバランス良く身につけます。
- ◆進路として、自然・環境の保護と利用に直接関与する公務員や環境関連組織、観光協会・DMO・まちづくり組織の職員、自然・環境を利用した宿泊業や旅行業の分野で活躍する人材、上記に関する情報を集め、編集し、発信する出版、放送、広告等の分野で活躍する人材を想定しています。

太字：必修科目、():単位数※無記載は2単位

	1年	2年	3年	4年
共通教育	神道と文化 英語Ⅰ・Ⅱ 第二外国語Ⅰ・Ⅱ 國學院の学び 日本文化を知る コンピュータと情報Ⅰ 科学的思考法	英語Ⅲ・Ⅳ Japan Studies 地球環境と人間		
導入	社会学概論 まちづくりと観光			
メソッド	社会調査法入門 統計分析の基礎	質的調査法	地理空間情報分析	
演習	導入ゼミナール	観光まちづくり演習Ⅰ 観光まちづくり演習Ⅱ(4) 基礎ゼミナールB	観光まちづくり演習Ⅲ(4) 専門ゼミナール	卒業研究(4)
展開・基礎	[Ⅰ]文化社会学 コミュニケーション論 [Ⅱ]地域資源論 博物館概論 [Ⅲ]公共政策概論 [Ⅳ]観光学概論 観光マーケティング	[Ⅰ]地域と環境の社会学 グローバル化論 [Ⅱ]民俗学概論 保全生態学概論 [Ⅲ]国土・都市計画論 都市と地域の交通 [Ⅳ]観光政策・計画論		
展開・発展		[Ⅱ]風景計画論 レクリエーション 計画論 [Ⅲ]行財政概論 まちづくり論	[Ⅰ]都市とメディアの社会学 観光社会学 [Ⅱ]地域遺産論 文化行政・文化財行政概論 自然/環境保護行政概論 [Ⅲ]農山漁村論 住民参加と合意形成 地域減災論 [Ⅳ]地域の観光情報メディア 観光地経営論 観光食マネジメント論 観光経済論 田園回帰論	
トピックス			観光まちづくりインターンシップ	
関連	地理学概論	神社ネットワーク論Ⅰ		
単位数	42単位	42単位	40単位	

合計124単位

履修モデル

D

公共政策から
観光まちづくりを学びたい学生

- ◆展開科目Ⅲ類(政策・計画)の科目を特に多く履修しながら、メソッド科目、トピックス科目を多く履修し、政策や計画の分析・策定・実行のための能力を身につけます。
- ◆特に、3年次以降は、トピックス科目の履修を契機に実務的なものの見方も兼ね備えていきます。
- ◆進路として、公務員、コンサルタント、NPO、NGO等の職員や、出版、放送、広告の分野で活躍する人材を想定しています。

太字：必修科目、():単位数※無記載は2単位

	1年	2年	3年	4年
共通教育	神道と文化 英語Ⅰ・Ⅱ 第二外国語Ⅰ・Ⅱ コンピュータと情報Ⅰ 法学(日本国憲法) 行政と市民生活 経済理論入門	英語Ⅲ・Ⅳ 國學院の学び 日本文化を知る		
導入	社会学概論 まちづくりと観光			
メソッド	社会調査法入門 統計分析の基礎	パブリックデザイン(地域と公共空間) 質的調査法	多変量解析	
演習	導入ゼミナール 基礎ゼミナールA	観光まちづくり演習Ⅰ 観光まちづくり演習Ⅱ(4)	観光まちづくり演習Ⅲ(4) 専門ゼミナール	卒業研究(4)
展開・基礎	[Ⅰ]文化社会学 [Ⅱ]地域資源論 博物館概論 [Ⅲ]公共政策概論 [Ⅳ]観光学概論 観光マーケティング	[Ⅰ]地域と環境の社会学 グローバル化論 [Ⅱ]都市建築史 [Ⅲ]地方自治概論 国土・都市計画論 都市と地域の交通 [Ⅳ]観光政策・計画論		
展開・発展		[Ⅰ]ジェンダーの社会学 [Ⅱ]風景計画論 [Ⅲ]行財政概論 農山漁村論	[Ⅰ]コミュニティ論 [Ⅱ]地域文化創造論 文化行政・文化財行政概論 [Ⅲ]まちづくり論 都市保全論 住民参加と合意形成 地域減災論 交通計画 アートと地域振興 [Ⅳ]地域の観光情報メディア 世界の観光政策 田園回帰論	
トピックス			文化芸術政策論 観光まちづくりインターンシップ	
関連		地域と都市の経済		
単位数	42単位	42単位	40単位	

合計124単位

履修モデル
E

空間づくり・計画づくりから
観光まちづくりを学びたい学生

- ◆メソッド科目とトピックス科目を積極的に履修しながら、展開科目Ⅱ類(資源)とⅢ類(政策・計画)の科目、関連科目も履修します。
- ◆空間づくりや計画づくりにつなげていくことを目指して、地域を取り巻く社会の分析、地域の空間構造・資源の把握、計画や政策の分析・策定・実行のための能力をバランス良く身につけます。
- ◆2年次以降、トピックス科目の履修を契機に実務的なものの見方を兼ね備えていきます。
- ◆進路として、宿泊業、建設業、不動産業、運輸交通業の分野や、観光協会・DMO、まちづくり組織の職員、公務員として活躍する人材を想定しています。

太字：必修科目、():単位数※無記載は2単位

	1年	2年	3年	4年
共通教育	神道と文化 英語Ⅰ・Ⅱ 第二外国語Ⅰ・Ⅱ コンピュータと情報Ⅰ 情報科学入門 科学的思考法	英語Ⅲ・Ⅳ 地球環境と人間 法と社会参加 日本の経済		
導入	社会学概論 まちづくりと観光			
メソッド	社会調査法入門 統計分析の基礎 プログラミングと数学基礎	データサイエンス	パブリックデザイン (地域と公共空間) 地理空間情報分析	
演習	導入ゼミナール	観光まちづくり演習Ⅰ 観光まちづくり演習Ⅱ(4) 基礎ゼミナールB	観光まちづくり演習Ⅲ(4) 専門ゼミナール	卒業研究(4)
展開・基礎	[Ⅰ]コミュニケーション論 [Ⅱ]地域資源論 博物館概論 [Ⅲ]公共政策概論 [Ⅳ]観光学概論 観光マーケティング	[Ⅰ]グローバリゼーション論 [Ⅱ]都市建築史 保全生態学概論 [Ⅲ]地域デザイン論 国土・都市計画論 都市と地域の交通 [Ⅳ]観光政策・計画論		
展開・発展		[Ⅱ]風景計画論 [Ⅳ]観光行動論 宿泊産業論	[Ⅰ]都市とメディアの社会学 [Ⅱ]レクリエーション計画論 自然/環境保護行政概論 世界遺産論 [Ⅲ]まちづくり論 都市保全論 交通計画 地域防災論 リノベーション論 [Ⅳ]観光地経営論	
トピックス		地域ブランディング論	不動産投資論 観光危機管理論	
関連	地理学概論		神社ネットワーク論Ⅰ	
単位数	42単位	42単位	40単位	

合計124単位

履修モデル
F

観光関連産業での事業・経営から
観光まちづくりを学びたい学生

- ◆展開科目Ⅳ類(交流・産業)の科目を積極的に履修し、地域主体の交流・産業を創出するための能力を身につけます。
- ◆1年次からトピックス科目を履修し、実務的なものの見方を兼ね備えていきます。2年次には関連科目も履修します。
- ◆進路として、宿泊業、旅行業、地域の観光協会・DMO等の観光産業及び、運輸交通業、起業、商社、IT、金融、広告等の観光関連部門で活躍する人材を想定しています。

太字：必修科目、():単位数※無記載は2単位

	1年	2年	3年	4年
共通教育	神道と文化 英語Ⅰ・Ⅱ 第二外国語Ⅰ・Ⅱ 日本文化を知る コンピュータと情報Ⅰ 経済理論入門	英語Ⅲ・Ⅳ Japan Studies 情報科学入門 経済経営数学入門		
導入	社会学概論 まちづくりと観光			
メソッド	社会調査法入門 統計分析の基礎	質的調査法		
演習	導入ゼミナール 基礎ゼミナールA	観光まちづくり演習Ⅰ 観光まちづくり演習Ⅱ(4)	観光まちづくり演習Ⅲ(4) 専門ゼミナール	卒業研究(4)
展開・基礎	[Ⅰ]コミュニケーション論 [Ⅱ]地域資源論 博物館概論 [Ⅲ]公共政策概論 [Ⅳ]観光学概論 観光マーケティング	[Ⅰ]グローバリゼーション論 [Ⅱ]保全生態学概論 [Ⅲ]地域デザイン論 国土・都市計画論 都市と地域の交通 [Ⅳ]観光政策・計画論 観光事業論		
展開・発展		[Ⅳ]観光行動論 ホスピタリティ・マネジメント論 旅行産業論	[Ⅰ]都市とメディアの社会学 観光社会学 [Ⅱ]地域遺産論 地域文化創造論 [Ⅲ]農山漁村論 地域防災論 アートと地域振興 [Ⅳ]宿泊産業論 観光地経営論 観光食マネジメント論 世界の観光政策 観光経済論 田園回帰論	
トピックス	経営学概論		運輸・観光実践論 観光まちづくりインターンシップ	
関連		地域と都市の経済 観光心理学		
単位数	42単位	42単位	40単位	

合計124単位

[基礎ゼミ]

蔵の街・栃木市の課題を 小江戸料理博物館で解決!

老舗旅館の女将さんの 小江戸料理誕生秘話に感動



かな半旅館でいただいたとちぎ小江戸料理

私の選んだ基礎ゼミの課題1では、まず重要伝統的建造物群保存地区について学びました。その後、夏休みにその一例として栃木市を訪れ、どんな課題があるのかを明らかにし、その解決策を考えて発表するフィールドワークを行いました。

栃木市の保存地区である嘉右衛門町は、江戸時代からの店舗や蔵が残っていることから、「蔵の街」とも呼ばれます。塚田歴史伝説館や栃木市立文学館(旧栃木町役場庁舎)などを見学。また、油伝味噌という江戸時代から続く味噌屋さんのご主人に話を聞きました。ご主人は伝統を受け継ぐ一方で、新たにクラフトビールの製造を始めて、地ビールまつりなどを開催して地域を盛り上げているとのことでした。そのほかにも、例えば月曜日はコーヒョップ、火曜日はレストランというように曜日ごとに店主が代わる空き家を利用したシェアキッチンも非常に面白いと思いました。私たちが行った日はコーヒョップで、店主の方は賃料が安かったので出店を決めたと話していました。

嘉右衛門町から新栃木駅に戻る道すがら、ゼミの友だちとこのまちの課題について話し合いました。そこで「お土産屋さんがいない」ことが話題に上りました。このときの会話が後にまちの課題とその解決策をプレゼンテーションするときに役立ちました。

栃木の新名物に「とちぎ小江戸料理」があります。老舗かな半旅館の女将さんの話によると、蔵に古文書が残されていたそうです。その古文書は江戸時代の献立表で、それを基に独自の小江戸料理を作り上げたといういきさつに、とても感動しました。これを課題解決に活かせないかと思いはじめました。



なかにし みやび
中西 雅さん
観光まちづくり学部 1年

旧栃木警察署跡地を活用した 蔵の街らしい拠点づくり

課題解決策を考える際に、蔵の街大通り沿いに旧栃木警察署跡の空き地があったことを思い出しました。栃木市のホームページを調べると、この土地の利用方針へのパブリックコメントを実施していて、駐車場という意見が多く寄せられていました。駐車場ではあまりまちづくりにつながらず、もっと良い活用方法があるのではないか。そこで思いついたのがここに小江戸料理博物館を建てるという案です。古文書を展示し、小江戸料理を提供し、小江戸料理のお土産を作って売る。そうすれば若者が来やすいし、お土産屋さん不足も解消できます。

この案はユニークだったらしく、高い評価をいただき、後日、栃木市役所や東武鉄道の方々の前で再度発表する機会も得ました。

これまで私は歴史的な建造物に全く興味がなかったのですが、この基礎ゼミを通して視野が広がりました。私は、「都市開発=ゼロからの開発」と思っていたのですが、既存のまちをリノベーションしたり、歴史的なまちを活かす新風を取り入れていくなど、さまざまな方法があることを知りました。また、この学部には私にない視点を持っている人が多く、発表などもとても面白く、他の人の意見は宝だと思いました。

このゼミを受ける前に、川越や佐原などさまざまな保存地区に行って予備知識を身に付けておいたほうがもっとよかったというのが私の反省です。また、地元の方々の話には課題やヒントがたくさん詰まっているので、聞き逃さないように常にメモを取ることをおすすめします。



大通り沿いの見世蔵

[観光まちづくり演習]

仲間と力を合わせて 作り上げる過程が楽しい

鎌倉生まれでない鎌倉パスタの名前の“なぜ”

観光まちづくり演習1・2のうち後期の2ではグループに分かれての鎌倉でのフィールドワークになります。

フィールドワークの最初の作業は、何について調べるかを決めることです。皆で話し合っていたとき、メンバーの一人が「鎌倉パスタというお店は鎌倉生まれではないのに、なぜ鎌倉という名前を付けてるんだろうね」と発言しました。みんなも「なぜだろう」と疑問に思い始め、インターネットで調べてみました。まず、鎌倉パスタ以外にも同じような例があることがわかりました。しかし、鎌倉パスタが名前に鎌倉を付けた理由はわからないままでした。鎌倉パスタに直接メールで問い合わせたところ、「鎌倉がもつ和のイメージが店のコンセプトとマッチするので鎌倉パスタとしました」との返答が送られてきました。

この返答を基に、鎌倉には和のイメージがあるというのを前提にして、鎌倉を実際に歩いて「鎌倉」と書かれたお店の看板を探すことにしました。そのときに、「『鎌倉』と漢字で表記されていたら和のイメージがあるけれど、『KAMAKURA』とローマ字書きだと和ではなくなるのではないか」という意見が出ました。この違いにも着目してグループが二手に分かれて、鎌倉の小町通りと長谷周辺をそれぞれ歩き、「鎌倉」や「KAMAKURA」表記の看板を見つけては写真に撮っていきました。それに加えて、この2つの地域の様子も観察しました。

後で、皆で写真を持ち寄り、感想を述べ合いました。その結果、小町通りではほとんどが漢字表記だったのに対し、長谷周辺は漢字とローマ字が半々であること。また、小町通りは修学旅行の小学生や高校生が多く、外国人観光客が



小町通り入り口からたくさんの「鎌倉」の文字



こばやし こう
小林 剛さん
観光まちづくり学部 2年

少ないけれど、長谷周辺は逆に、日本人の観光客が少なく、外国人観光客が結構多いことが明らかになりました。



ローマ字表記の「KAMAKURA」

熱い議論を通して考えが洗練されていった

中間発表に向けて、撮影場所をリスト化し、白地図にドットを打ち、番号を振って、という細かな作業を何時間もかけて行いました。同時に内容をどういうふうに関連するか、皆で熱い議論を戦わせました。例えば、今後の展開として他の地域との比較をしようということになり、その対象地を銀座と決めたのですが、「銀座」という名のついたお店にするのか、銀座商店街という名を調べるのか、かなり話し合いました。授業中だけでは意見がまとまらず、授業時間外に集まったり、ラインでやり取りしたりすることもありました。議論をするたびに自分たちの考えがどんどん洗練されていくのを感じました。

今回、観光客という目線ではなく、俯瞰的に鎌倉というまちを見たことは貴重な経験になりました。それ以上に、仲間たちとどんどん意見を言い合いながら、テーマを決めることから力を合わせて一つのものを作り上げていく過程は座学では絶対に味わえないもので、とても楽しかったです。目的は同じでも、そこへのアプローチの仕方にさまざまな考え方があったことを知れたのもよかったです。

中間発表が終わり、今は最終発表に向けて、内容をさらに充実させているところです。発表の練習もしなければなりません。こうした一つひとつの経験は社会に出てからきつと役に立つと思います。



こむら 恋晴さん
つじ 響輝さん

観光まちづくり学部 2年

「大学生観光まちづくり コンテスト2023」で JTB賞を受賞!

「福島県双葉郡川内村の特産品×染色」をプランの軸に

「大学生観光まちづくりコンテスト2023」の募集を知り、応募しました。今年のテーマは「福島復興ステージ 選定市町村が掲げる地域資源・観光資源に基づき、復興に向けて前向きに取り組んでいる方と連携した『観光まちづくりプラン』」。福島県12市町村から1つ以上の市町村を選び、その地域が掲げた選択コンテンツと自由コンテンツを組み合わせて、地域の課題解決や発展につながるような観光まちづくりプランを提案するというもの。

私たちが選んだのは浜通りに位置する川内村です。イワナやソバなどの産品があったり、モリアオガエルの生息地があったりと、魅力的な資源が豊富であることが選択の理由です。川内村の選択コンテンツは①かわうちワイン、②テントサウナ、川Sup、③かわうち祭りで、私たちが注目したのは「かわうちワイン」です。理由は、2人ともワイン

に興味をもったから。

ワインを使った復興政策を考えようと、まず川内村のことを徹底的に調べました。村の歴史、産業、有名なもの等々、さまざまな文献を読みあさるうちに、かつて川内村は養蚕が盛んだったことがわかりました。「ワインと養蚕を掛け合わせたいね」と言っていたら、「あ、ワイン染めがあるじゃん」となり、ワイン染めをメインに提案しようという話になりました。次にワイン染めについて調べました。そこで気が付いたのが、ソバや、かつて川内村で生産量日本一を誇ったことのある木炭でも染色ができるのではないかとということ。こうやって「ワイン×染色」という初期案からどんどんバージョンアップし、最終的に「川内村の特産品×染色」で様々な新しい染物を生み出すという案に行きつきました。



現地調査



現地調査



授賞式

二次交通の課題解決に染物ツアーを提案

3泊4日で現地フィールドワークも行いました。ワイナリー、キノコ園、草野心平記念館「天山文庫」、釣り堀や和風庭園のある「いわなの郷」などのほか、地元の方が普段利用している市場も訪れ、地元の空気を、五感を通してたっぷり味わいました。このフィールドワークで一番強く感じたのは、川内村の人々の優しさです。電車は通っておらず、バスも1日3本しかないという二次交通の大変不便な地域です。炎天下、私たちが歩いていると通りすがりの村の人がわざわざ車を止めて「送ってあげるよ」と親切に声を掛けてくれました。また、訪問先では、皆さん、私たちの質問に丁寧に答えてくださいました。

二次交通の不便さは川内村の課題なので、私たちは提案の中に、染物を核としたツアーによる解決策を盛り込みました。染物体験ツアーなどを通して関係人口が増え、そこ

から少しでも定住人口が増えていけば、二次交通が次第に充実していくのでは、と考えたのです。

今回、コンテストには全国から117チームが応募し、そのうち書類選考によって11チームが本選に選ばれました。その中に私たちも含まれていました。本選では各チームがプレゼンテーションを行います。プレゼンの持ち時間は10分。ところが私たちが作った最初の原稿は20分もあり、大幅に削らなくてはなりません。修正しては原稿を読み上げ、時間を計り、また文章を削るという作業を何度も繰り返しました。

ようやく完成した原稿でプレゼンに臨み、その結果は……JTB賞の受賞! 全く予想していなかったので、とても嬉しかったです。この経験を活かして来年も応募するつもりです。

島の子どもたちが 魅力を知る 教育プログラムを作りたい

まき 小紗さん 観光まちづくり学部 1年

牧さんの
とある
1日

- 6:30 起床
- 8:30 家を出る
- 9:00 授業
- 12:00 昼食
- 13:05 授業
- 15:00 バイト
- 19:30 帰宅
- 19:45 ご飯作り・食事
- 20:45 明日の準備・課題
- 23:30 就寝



オリエンテーションで声を掛けてくれた人と友だちに

私は鹿児島県の離島、徳之島の出身です。高校生のとき、先生に勧められてJALの「高校生による徳之島の魅力発信プロジェクト」に参加しました。それがとてもやりがいがあり、地元貢献したいとの気持ちが強くなり、この学部への進学を決めました。

東京や横浜に行ったのもオープンキャンパスのときが初めて。徳之島は人よりも牛の数のほうが多いといわれるくらいなので(笑)、人の多さには驚きました。また、徳之島にはない電車に乗るのも新鮮でした。不安は全く感じませんでした。都会の活気に触れて、ここで大学生活を送ることができれば、いろいろなスキルを身に付けたり、視野が広がったりして成長できるに違いないと心がワクワクしました。ただ一つ心配だったのが、友だちができるだろうかということ。しかしその心配は入学前日のオリエンテーシ

ョンのときに消えました。声を掛けてくれた子がいて、以来、ずっと仲良くしています。また、ゼミで一緒の子たちとも友だちになりました。入学当初は、意識的に標準語を使ってみなどおしゃべりしていました。今は慣れたので、それほど意識しなくても標準語が出るようになりました。それでもたまに徳之島の方言が出て通じないことがあります。みんなは気にしないので、私も気軽に話しています。

週2~3回夕方、パン屋さんでバイトをしています。そのあと部屋に帰ってから夕食を作って食事。外食は高いので自炊をしています。時々、無性に島の食べ物を食べたいくなります。そのときは母や祖母に連絡をして、島の郷土料理の鶏飯やお菓子のサタマメ(黒砂糖豆)などを送ってもらっています。親元を離れて、家族の有難さがよくわかりました。

ご飯
お味噌汁
鮭のホイル焼き
スベアリブと水菜
カニカマの春雨サラダ



このお店のピザが美味しくて大好き!
&チーズとはちみつが合うことに気づいた日
(ここにきてからハマった)



いとこ初めて夜のみなどみらいを
楽しんだ日(都会感を味わった)



ある日の夕食

外からの目線で島の魅力を再発見

大学生活に慣れた6、7月頃、地元がとても恋しくなりました。島にいるときは、特に何も感じなかった真っ青な海が恋しいのです。東京や神奈川にも海はありますが、電車に乗ってわざわざ行かなくてはなりません。でも、徳之島では毎日学校の行き帰りにも眺められるほど、海は身近にありました。逆にいえば、海があることがあまりにも当たり前すぎて、島にいるときはその素晴らしさに気がまませんでした。しかし、島から出たことで、海は徳之島の大きな魅力の一つだと再発見しました。“外からの目線”は地域づくりに重要だと、自分の体験から強く感じています。

1年生なので今は座学が中心ですが、2年生になったらフィールドワークが増えてくるのでとても楽しみです。また、夏休みを利用してインターンシップにも参加するつもり

です。

かつての私がそうであったように、島にはたくさんの魅力があるのに、島の子どもたちは地元の良さあまり気付いていません。大学を卒業したら島に帰って、子どもたちが島の魅力を知る教育プログラムを作りたい。そのときに、フィールドワークやインターンシップなどでの経験がきっと役立つと思います。

地方から都会に出てくることは不安かもしれませんが、この学部の人たちは積極的に声を掛けてくれるので、すぐに馴染めます。一人暮らしは確かに大変だけど、自立心を養えます。私自身、めんどくさがり屋だったので何でも自分でするようになり、その変わり様に両親も驚いています。楽しく充実した大学生活を送れますよ。



留学と国際交流



主な留学制度

異文化と触れ合い、世界の多様な文化や価値観、社会のあり方を知ることは、翻って地域を見つめる視野を限りなく広げてくれます。國學院大學では、世界に出て異文化に直接接触れ、体験できる留学制度を充実させています。

- 夏期・春期短期留学 ————— 大学の授業を休まずに異文化を体験できます
- Semester (1学期間)留学 ————— しっかりと語学力を身につけます
- 協定(1学期間～2学期間)留学 ————— 現地の学生と一緒に授業を受けます
- 認定(1学期間～2学期間)留学 ————— 協定校以外への長期留学も可能です

相談は、国際交流課(渋谷キャンパス6号館1階)へ
[開室時間] 9:00～12:50 13:50～17:00

詳しくはHPで



学内で国際交流

國學院大學では、学生がグローバルな視座を獲得するために、キャンパス内での国際交流やグローバル教育にも力を入れています。

○交換留学生との授業や交流

國學院大學では、海外協定校から毎年20人程度の交換留学生を受け入れています。日本語を学ぶ彼らと、日本に関する授業を英語で受講したり(Japan Studies)、生活サポートや各種イベント(International Coffee Hour等)を通じて共に交流しながら、多様性のある学びを経験することができます。詳しくは国際交流課にお問い合わせください。



○外国人研究者との学術交流

國學院大學では世界各国から研究者を招聘し、研究成果をあげています。また、外国から研究者を招いてのシンポジウムなども行っています。



【ベトナム】ランタンに彩られたホイアンの夜景。あまりの美しさに涙が出るほど感動

たけうち ひな 武内 陽菜 さん 観光まちづくり学部 2年



中学生のとき、赤や青、白といった色とりどりのランタンが浮かび上がるホイアンの夜景の写真を、いつか行ってみたいとずっと思っていました。今回のスタディツアーはホイアンで何と3泊！迷わず参加を決めました。

長年の夢が叶ったのは2日目です。前日宿泊したダナンからバス移動でホテルへ。スクールがやむのを待ってから自転車でホイアンの街へ。自由行動ではスパに行きリフレッシュ。実はスパも今回のツアーの楽しみの一つでした。スパが終わって外に出たとき、写真で見たのと同じ景色が目の前に！「ウー、こんな景色が本当にあるんだ」とあまりの感動で涙が出てきました。

ホイアンはベトナム中部にある古都で、旧市街は世界文化遺産に登録されています。旧市街を流れるトゥボン川沿いには黄色い壁をした古い建物が並んでいます。ここでは、ボートに乗せてもらって灯籠を川に浮かべて灯籠流しをしました。ゆらゆらと揺れながらゆっくり流れていく灯籠の美しい



ダナンのハン市場



クッキングクラスで作った料理



ホイアンの有料フォトスポット

こと！さらに素晴らしかったのが翌日のランタン祭りです。毎月満月の日に街灯が消され、街はランタンの灯に包まれます。その幻想的な風景は生涯忘れられないものになりました。

ホイアンでのベトナム料理教室も楽しかったです。市場に行って食材を買って料理をするのです。驚いたのがその市場。肉がそこら辺に雑に置かれていました。聞けば火を通すから大丈夫だとのこと。ベトナムの人々のたくましさを感じました。

現地のドンア大学と國學院大學との大学交流協定調印式にも出席しました。式典の後、日本語文化学部の学生との交流会がありました。彼ら・彼女らは日本語がペラペラ。ですから日本語でワイワイ言いながら一緒にベトナムの伝統的な傘に国旗やハスの花を描いたりして楽しい時間を過ごしました。その傘は今、私の部屋に飾っています。

ツアー中、仲間と助け合ったり、一緒に喜んだりしたことも一人旅では味わえないスタディツアーならではの良さでした。

【タイ】地元の大学生との交流が一番の思い出。再会を楽しみに英語を勉強中

あだち たけや 足立 壮也 さん 観光まちづくり学部 2年



海外に行くのは初めて。バンコクの空港に到着すると周りから聞こえてくるのはタイ語ばかり。タイに来たことを実感した瞬間でした。その日の夜は自分たちだけで繁華街で夕食。英語やジェスチャーでなんとかコミュニケーションを取り、有名なタイ料理・ガパオライスを食べることができました。

2日目は地元のタマサート大学での学生たちとの交流会です。隣の席にいた学生にタイ語で「サワディークラップ(こんにちは)」と挨拶したら、ステキな笑顔が返ってきました。彼は英語がうまく、僕たちの下手な英語を一生懸命理解しようとしてくれました。交流会の後、船やトゥクトゥク(三輪タクシー)を利用してお寺などを案内してくれました。「It's beautiful」と言いながら一緒に写真を撮るなど、とても楽しい時間を過ごしました。

3日目は世界遺産に登録されているアユタヤ遺跡へ。日本であれば壊れた遺跡は最新の技術を駆使して再現しようとするのに、アユタヤでは頭部を切り落とされた仏像や壊れた建物など、手を加



アユタヤで象乗り体験



タイ料理といえばガパオライス



旧市街と高層ビルが共存するバンコク

えずに保存されているものが多くありました。「歴史を風化させないためにそのまま残している」というガイドさんの話が興味深かったです。

4日目は市内観光でショッピングモールに行ったのですが、回転ずしのスシローやとんかつ まい泉、ドン・キホーテなど日本の企業がたくさん進出しているのにはビックリ。

5日目は参加者全員で川沿いの高級レストランで夕食。バンコクの美しい夜景を眺めながら、最後の夜を楽しみました。

今回の最大の思い出は現地の大学生との交流です。交流会のときにインスタグラムやラインを交換したので、その後も連絡を取り合い、自由行動のときに来てくれて自分たちがよく利用するフードコートなどに連れていってくれるなど、とても親切にしてくれました。彼が日本に来るときには、いろんなところを案内したい。それまでもっと英語を話せるようになりたいと今、勉強中です。



奨学金について

國學院大學では、学生の学びをサポートするため、下記のような多様な奨学金を用意しています。申請条件、申請期間等は、変わることがありますので、ホームページで随時確認してください。

國學院大學学内奨学金(給費)ホームページ
<https://www.kokugakuin.ac.jp/student/scholarship/p2>

学業奨励支援制度

- ◆ 國學院大學成績優秀者奨学制度

修学経済支援制度

- ◆ 大規模災害学費減免制度 ◆ 特例給費奨学金制度
- ◆ 教育ローン利子補給制度 ◆ 國學院大學留学生奨学金制度

海外活動支援制度

- ◆ 國學院大學短期留学グローバル・チャレンジ奨学金
- ◆ 國學院大學セメスター留学助成金 ◆ 國學院大學セメスター留学学習奨励金
- ◆ 國學院大學認定留学奨学金 ◆ 國學院大學認定留学天翔奨学金
- ◆ 國學院大學協定留学奨学金 ◆ 國學院大學「標」奨学金

進路支援制度

- ◆ 国家公務員採用総合職試験支援奨学金制度 ◆ 公認会計士試験支援奨学金制度

特定寄付による支援制度

- ◆ カピー奨学生 ◆ ふるさと奨学金制度

※学外奨学金 このほか、地方公共団体や民間団体の奨学金もあります。

インターンシップ

國學院大學では、学生のうちに実際に企業や団体などで働いてみる就労体験、いわゆるインターンシップへの参加を推奨しています。

インターンシップの分野は、一般企業から行政機関、民間団体、さらには特定職種別にいたるまで多岐に渡ります。

例えば、主として以下のような形態のインターンシップがあります。

- ・ 公募型インターンシップ
- ・ 学内推薦型インターンシップ
- ・ マッチング型インターンシップ
- ・ 国際インターンシップ

相談は、たまブラザー事務課キャリアサポート窓口(1号館1階)へ

[窓口受付開室時間] 9:00~12:45 13:45~16:40

※インターンシップの詳細は、今後別途案内していく予定です。

温泉津のまちづくりに 関わる人たちや 移住者の行動力に圧倒

みむら さゆい さん

観光まちづくり学部 2年



山での作業用に借りたもんぺ



山で石垣づくり



海が見える食堂での昼食



モーニングの提供

午前と午後で毎日やるのが違うプログラム

3年生になったら就活で忙しくなるので、時間のある2年生の夏休みに何かをしたいと思い、温泉津町でのインターンシップに参加しました。温泉津町は島根県中部に位置する小さな町です。古くから温泉が有名で、町並みは国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されています。港町でもあり、石見銀山で採掘された銀の輸出港であったことから、世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」の一部にもなっています。

インターンという、ホテルや旅館など一カ所で働くというイメージがありますが、温泉津でのインターンはそれとは異なり、毎日午前と午後で働く場所が異なっていました。例えば、午前は旅館で朝食の盛り付けや掃除など、午後は山に行って木の伐採、次の日の午前はカフェで手伝い、といった具合です。どれもマニュアルがないので最初は戸惑いましたが、その都度皆さんが丁寧に教えてくださったので、なんとかこなすことができました。今回のインターンシップで一番嬉しかったのは、町の方々が温かく受け入れてくださったことです。2週間ほど滞在したのですが、小さな町なので地元の人から「見かけない顔だね」と声を掛けられたり、観光客に「どこから来たの?」と訊かれたりして、そのたびに「大学のインターンで来ています」と答えていました。滞在期間中、10回以上は言ったのではないのでしょうか。しばらくすると皆さんと顔なじみになり、町中どこでも会うとまるで昔からの知り合いのように親しく挨拶をしていました。

地域に反対された山奥の古民家再生施設が今や人気に

多くの地方都市がそうであるように温泉津町も以前は少子高齢化が進み、温泉街もさびれる一方だったそうです。しかし、今は新しい施設がいくつもできたり、移住者が新しいビジネスを始めたりと、活気あるまちに変わりつつあります。

温泉津の温泉街にキッチンやコインランドリー、ドミトリーを併設した「WATOWA」という施設があります。ここのキッチンでは日本中から月替わりでシェフがやって来て料理を出すというユニークな試みをしています。また古民家を再生してテーマの異なる宿泊施設もいくつかあります。WATOWAもこれらの宿泊施設も、約10年前に家族で温泉津に移住してきた一人の女性が始めたものです。その女性が「何もないこと」をテーマに古民家再生の一棟貸しの宿泊施設をつくらうとしたとき、住民から「こんな不便なところに人は来ない」「お金をかけてリフォームしても利益が出るはずがない」などと反対されたそうです。それでも根気強く説得を続けてオープンさせました。今では人気の宿泊施設になっていて、私がいたときもフランス人が宿泊していました。

最近、東京から移住してきた女性もいました。私とそれほど歳が違わないのに、サウナやギャラリーが併設された複合施設「時津風」を借りてカフェを開きモーニングを提供していて、いつも多くの人が集っていました。ほかにも、石州和紙で神楽のお面を作っている人や、地ビールの開発などを行っている女性グループなど、さまざまな人と話をすることができました。私は元々行動力のあるほうではありません。でも、皆さんのすごい行動力に刺激を受け、私ももっと積極的にいろんなことに挑戦していこうと思いました。

夏祭りを手伝ったり、神楽を見たり、このインターンシップでは多くの経験ができました。海も山も温泉もあり、人も温かい温泉津に来年もまたインターンに行く予定です。

キャリアサポート



小学校から大学まで約16年間に及ぶ学校教育期間を終え、いよいよ社会へ羽ばたこうとする時、私たちは何を考えるのでしょうか。グローバル化、人工知能AIの発達、地域紛争など混沌とした世界情勢。これから飛び込もうとしている世界は、予測不能かつ日々めまぐるしい変化をみせています。そこにどう向き合っていけるか。すべては本人次第です。

世界に羽ばたこうとしている学生の背中を

そっと押してあげる、そのような支援を行っています。

カリキュラムとの関わり

國學院大学の授業科目は、共通教育プログラムと専門教育科目に分けられます。共通教育プログラムでは教養を、専門教育科目では専門性を身に付けます。これに実践力を付与するものとしてキャリアサポートがあります。

資格と講座

國學院大学では、課程の中で「なりたい自分」を叶えるために、博物館学芸員養成課程、神職課程などを提供して自己実現をサポートしています。また、外部機関と連携した資格講座、検定などの受講相談やサポートも積極的に行っています。

(例えば、日商簿記検定3級対策講座、行政書士対策講座、宅地建物取引士対策講座、ファイナンシャルプランニング検定3級対策講座、税理士対策講座、宗教文化士(認定資格)など)

国家公務員採用総合職試験支援奨学金制度

国家公務員を目指す人を対象としたキャリア形成をサポートするための奨学金制度です。

奨学金額：本学指定の外部セミナー等の受講料及びセミナー教材費

対象：学部2年次後期に実施する選考試験を受験し、本学指定の学部セミナー等を指定した期間を通して受講できる者

キャリア形成サポートの詳細は、今後別途案内していく予定です。

相談は、たまプラーザ事務課キャリアサポート窓口(1号館1階)へ
[窓口受付開室時間] 9:00~12:45 13:45~16:40

就職・進路の支援



一口に「就職」といっても、民間企業へ就職、行政機関に公務員として就職、資格を取って就職など、様々な形があります。

いずれにしても学生生活の間にしっかり準備して臨むことが重要です。特に民間企業への就職では、就職活動の早期化が進んでおり、入学後、学びを深める中で常に考え、早めに準備を進めておく必要があります。

國學院大学では、就職率だけではなく、就職後の学生一人一人の満足度を特に重視して支援をしています。学生の皆さんが希望する道に進み、社会で活躍し、より充実した人生を送るために、様々な就職支援を企画しています。

たまプラーザキャンパスの就職支援は、たまプラーザ事務課と渋谷キャンパスのキャリアサポート課とのダブル支援体制で行います。

例えば、就職関連の専門アドバイザーを迎えて、一般企業の就職対策をはじめ、公務員試験対策の個別面談や講座を開講します。また、学生一人一人の状況に適切に対応できるよう、業界分析を踏まえた就職支援の企画を検討・実施します。就職活動に取り組む学生を対象とした大学独自のセミナーや合同説明会を数多く開催していますので、積極的かつ気軽に参加してください。

主な就職支援企画

ガイダンス…就職ガイダンス 就活スタートアップガイダンス など

各種講座…自己分析&書類対策講座 たまプラー就職ゼミ など

模擬試験…SPI対策模擬試験 模擬面接指導会 など

個別指導…進路調査面談 就職アドバイザー など



公務員試験に向けたサポート

就職・進路先として公務員は根強い人気があります。ただ、公務員といっても総合職・一般職から専門職まで様々な職種があり、それぞれ異なる内容の採用試験が行われます。自分の希望をしっかりと考えたうえで、筆記試験、人物評価試験(面接、集団討論、小論文等)などの試験対策を早めに始めておく必要があります。そのため、國學院大学では、1・2年次から様々な支援プログラムを用意しています。例えば、以下のようなプログラムがあります。

- ・PCAP(実践的キャリア開発プログラム)
- ・K-PLAS国家公務員総合職コース など

就職・進路支援の詳細は、今後別途案内していく予定です。

相談は、たまプラーザ事務課キャリアサポート窓口(1号館1階)へ
[窓口受付開室時間] 9:00~12:45 13:45~16:40

本学部での学びを通して身に付く、地域の課題解決に向けた分析力や提案力、そして未来に向けた構想力は、いわゆるまちづくりや観光業の分野だけでなく、さまざまな領域で活かせる能力です。

■ 就職に関連して次のような資格を目指すことができます
(別途資格試験の受験が必要です)。

- ・総合旅行業務取扱管理者 ・国内旅行業務取扱管理者
- ・全国通訳案内士 ・地域通訳案内士 ・不動産鑑定士
- ・宅地建物取引士 ・技術士 他

- ・出版・放送
- ・広告代理店・PR会社
- ・商社・金融・IT産業
- ・建設業・不動産業
- ・都市開発 他

公共から地域を支える

- ・国家公務員
- ・地方公務員
- ・博物館等の学芸員*・職員
- ・環境関連組織 他

※単位取得によって資格を得ることが可能



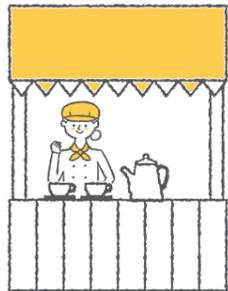
環境調査・
保全関連組織



博物館
学芸員・職員



Uターン
Iターン起業



出版
広告代理店

地域に根ざした事業を行う

- ・観光協会/観光地域づくり法人(DMO*)
- ・NPO
- ・まちづくり組織
- ・Uターン・Iターン起業
- ・地域プランナー 他

* Destination Management/Marketing Organization



航空・鉄道等
交通事業者



観光協会
/DMO



観光施設
運営者



建設業
不動産業
都市開発



- ・コンサルタント
- ・宿泊業・旅行業
- ・観光施設運営者
- ・航空・鉄道等交通事業者 他



経済活動で地域と世界をつなぐ

観光の専門を活かす

地域マネジメント研究センターとは

観光まちづくり学部では、学部設置と同時に学部の附属組織として「地域マネジメント研究センター(Community Management Institute)」を開設しました。CMIを略称として使用しますので、ぜひ覚えておいてください。たまプラーザキャンパス若木21の1階にあります。CMIは、“観光まちづくり学部と地域・社会を結び、両者の発展に寄与し、観光を軸とした持続可能な魅力ある地域づくりに貢献する”ことを目的に、①研究推進・支援機能、②地域連携機能、③企画・運営機能の3つの機能を有します。

一つ目の研究推進・支援機能は、地方自治体や公的団体等との共同研究を推進し国内外の観光まちづくりに関する情報拠点として、情報を収集・発信する役割を果たします。特に、本学部の学びに関する図書や観光まちづくりに関する図書・雑誌、さらに包括連携協定を結んだ地域の図書・資料などを集めた「観光まちづくりライブラリー」(右ページ参照)は、とてもユニークな空間です。「渋谷キャンパス図書館」・「たまプラーザキャンパス図書館」とこの「観光まちづくりライブラリー」を上手に使い、観光まちづくりの学びを深めてください。

二つ目の地域連携機能は、本学と包括連携協定を結ぶ地域をはじめとした、魅力ある観光まちづくりを実践している地域や団体などと、学生・教員との交流を図る役割を果たします。現在、千葉県香取市佐原地区、岐阜県高山市、



「かながわ魅力再発見」ワークショップ

三重県鳥羽市、愛媛県内子町、大分県由布市と包括連携協定を結び、活発な交流が行われています。また、栃木県栃木市、東武鉄道株式会社、東武トップツアーズ株式会社と本学部の4者による「持続可能な『観光まちづくり』」に関する協定書も締結され、産学官連携による共同研究も始まっています。他にも、神奈川県、一般社団法人日本自動車連盟(JAF)神奈川支部と本学部との産学官共同・連携事業の実施に関する覚書も締結され、本学部生も参加する「かながわ魅力再発見」事業に取り組んでいます。

三つ目の企画・運営機能では、各地の観光まちづくりに携わっている専門家などを招いた「観光まちづくりフォーラム」や「観光まちづくりカフェ」を定期的に開催します。2023(令和5)年度に実施したイベントの様子を、P40-41で紹介しています。

さらに、各地の観光まちづくりの取り組みやトピックス、本学部の取り組みを紹介する機関誌『観光まちづくり』を年1回発行し、地域の方々とのコミュニケーションツールとして活用しています。

観光まちづくり学部の特色であるCMIに関心を持ち、「観光まちづくりライブラリー」に足を運んでみてください。

「観光まちづくりライブラリー」

「観光まちづくりライブラリー」(以下、ライブラリー)は、本学部における学びおよび観光まちづくりに関する専門図書・資料や情報を収集・保存し提供する専門ライブラリーで、たまプラーザキャンパス「若木21」1階・地域マネジメント研究センター(CMI)内にあります。司書資格を有する研究員をはじめとするスタッフが運営しており、一般の図書館のように自由に本を閲覧したり、興味のある本を借りたりすることができます。

ライブラリーでは、モニターやパネルなどによる包括連携協定を結んだ地域の紹介や教員図書、おすすめ図書の紹介など、さまざまな展示や情報発信を行っています。また館内にある大きなテーブルや椅子、一部の書棚は、岐阜県高山市の地場産業である飛騨家具メーカーの製品です。無垢の木の温もりを感じながら、ゆったりとご利用ください。



1. 蔵書(コレクション)

蔵書は「渋谷キャンパス図書館」・「たまプラーザキャンパス図書館」と連携して収集しています。

◆図書:学部教育に関わる基本書、全集、シラバス図書、参考文献資料(辞典・事典等)、学部教員図書等(約3000冊)

<蔵書分類>

皆さんが興味のあるテーマに応じて図書や資料を探しやすいよう、学部カリキュラムの体系を踏まえた「観光まちづくり分類(KM分類)」という独自分類を用いています。

KM分類(大分類)	
KM0	国学院関係・教員図書
KM1	I類:社会
KM2	II類:資源
KM3	III類:政策・計画
KM4	IV類:交流・産業
KM5	メソッド
KM6	ガイドブック・地図
KM7	統計・調査計画資料

◆雑誌:学部カリキュラムに対応した各分野の専門雑誌・学術誌(約140タイトル)、地域情報誌(ローカル誌)等

◆開館時間

平日10:00~17:00 通年開館(土日祝日は休館)

*大学の夏休み、年末年始、春休み期間等は一部休館する場合あり

◆資料の閲覧・貸出

○ライブラリー内での閲覧は自由

*蔵書は、専用のOPACおよび大学図書館OPACで検索可能です
○貸出について

*貸出は原則、国学院大学教職員およびたまプラーザキャンパスの2学部(観光まちづくり学部、人間開発学部)の学生が対象

*貸出冊数:同時5冊まで/人、貸出期間:8日間

*受付カウンターで手続きをしてください

<貸出できない資料(館内閲覧のみ)>

禁帯出図書(辞典・事典、統計・白書等)、一部の雑誌、地域情報誌等

○その他

*コピー:ライブラリー内でのコピーはできません。コピーする場合は貸出手続きをしてください

*資料探しの相談:開館時間内に限り、受付カウンターで対応します

2. 利用案内

◆利用対象

国学院大学の学生・教職員

【利用ルール】

*食べ物の持ち込み、ライブラリー内および資料の撮影はできません

*個人PC、フタ付きの飲み物は持ち込み可

学生と育てるライブラリーを目指して!

基本書や本学部ならではの資料の充実とともに、ライブラリーを利用する学生も次第に増えてきました。

ライブラリーでは、新入生向けの入門書の紹介や、社会学、民俗学、歴史的町並み、自然公園、観光産業等さまざまなテーマの専門書の紹介など、年間を通して企画展示を行っています。来館するたびに、皆さんの観光まちづくりへの興味が広がることを期待しています。

さらに今後は、企画段階から学生の皆さんに参加してもらいながら、一緒に企画展示やイベント、情報発信に取り組んでいく予定です。皆さん、ぜひご参加ください。



「観光まちづくりフォーラム」と「観光まちづくりカフェ」

CMIでは、地域の実践例や他の学術分野とのシナジーにより、「観光まちづくり」に結びつく幅広い学びを生み出すためのイベントとして、「観光まちづくりフォーラム」や「観光まちづくりカフェ」を開催しています。



「観光まちづくりフォーラム」は、本学部の考える観光まちづくりを外部に発信することを目的としたイベントで、年1回開催しています。地域の観光まちづくりの実践者にお越しいただき、具体的な取り組み事例に関する講演や実践者同士のパネルディスカッションなど、観光まちづくりについての幅広い議論が展開される場となっています。オンライン視聴の参加申し込みも受け付けており、観光まちづくりに興味をお持ちの方なら誰でもリアルタイムでご参加いただけます。開催が近づきましたら、大学のホームページにてご案内いたします。学生のみならずのご参加もお待ちしております。



過去(4回)の開催日時と
パネルディスカッション・テーマ。

- ◆ 第1回 2020(令和2)年11月26日(木)
「地域を見つめ、地域を動かす」
- ◆ 第2回 2021(令和3)年11月8日(月)
「私たちの考える観光まちづくり」
- ◆ 第3回 2022(令和4)年11月15日(火)
「観光まちづくりのリアル、そして未来」
- ◆ 第4回 2023(令和5)年11月8日(水)
「地域の暮らしと観光まちづくり」

◆ 第6回 2023(令和5)年2月22日(水)
テーマ:「赤米行事をめぐる現状と継承への取り組み」
ゲスト: 歌手 相川 七瀬氏
南種子町教育委員会 石堂 和博氏



◆ 第7回 2023(令和5)年6月28日(水)
テーマ:「重伝建での“暮らし”から“観光まちづくり”を考える」
ゲスト: 愛媛県内子町ゲストハウス「内子晴れ」オーナー 山内 大輔氏



◆ 第8回 2023(令和5)年10月11日(水)
テーマ:「TOD(公共交通主導型開発)による
持続可能な田園都市」
ゲスト: 東急総合研究所フェロー・主席研究員 太田 雅文氏



観光まちづくり Café

「観光まちづくりカフェ」は、年間2～3回程度、ざくばらんな形で行われる、学部内での勉強会・交流会です。

地域で活躍されているまちづくりの第一人者をお呼びして地域の実践例について講演していただいた後、ゲストと教員をパネリストとしたパネルディスカッションや意見交換会を通して理解を深めていく形となっています。

学生の参加も歓迎しており、学生が地域づくりの主役と直接交流できる貴重な機会となっています。ぜひ積極的に参加して学びを深めてください。

2023(令和5)年度は、左記の「観光まちづくりカフェ」が実施されました。第7回カフェでは、基礎ゼミで現地を訪問した学生もパネリストとしてディスカッションに加わりました。※ゲストの所属等は実施当時のものです。



たまプラーザキャンパス

主な施設紹介

東急田園都市線たまプラーザ駅から静かな住宅街を進むとたまプラーザキャンパスが見えてきます。正門を入ると目に飛び込んでくるのは木材の意匠が印象的な1号館です。その先には2号館、さらに歩を進めると広い球技場にたどりつきます。その向こうにある緑色の屋根の建物が観光まちづくり学部の学びのメイン施設、若木21です。

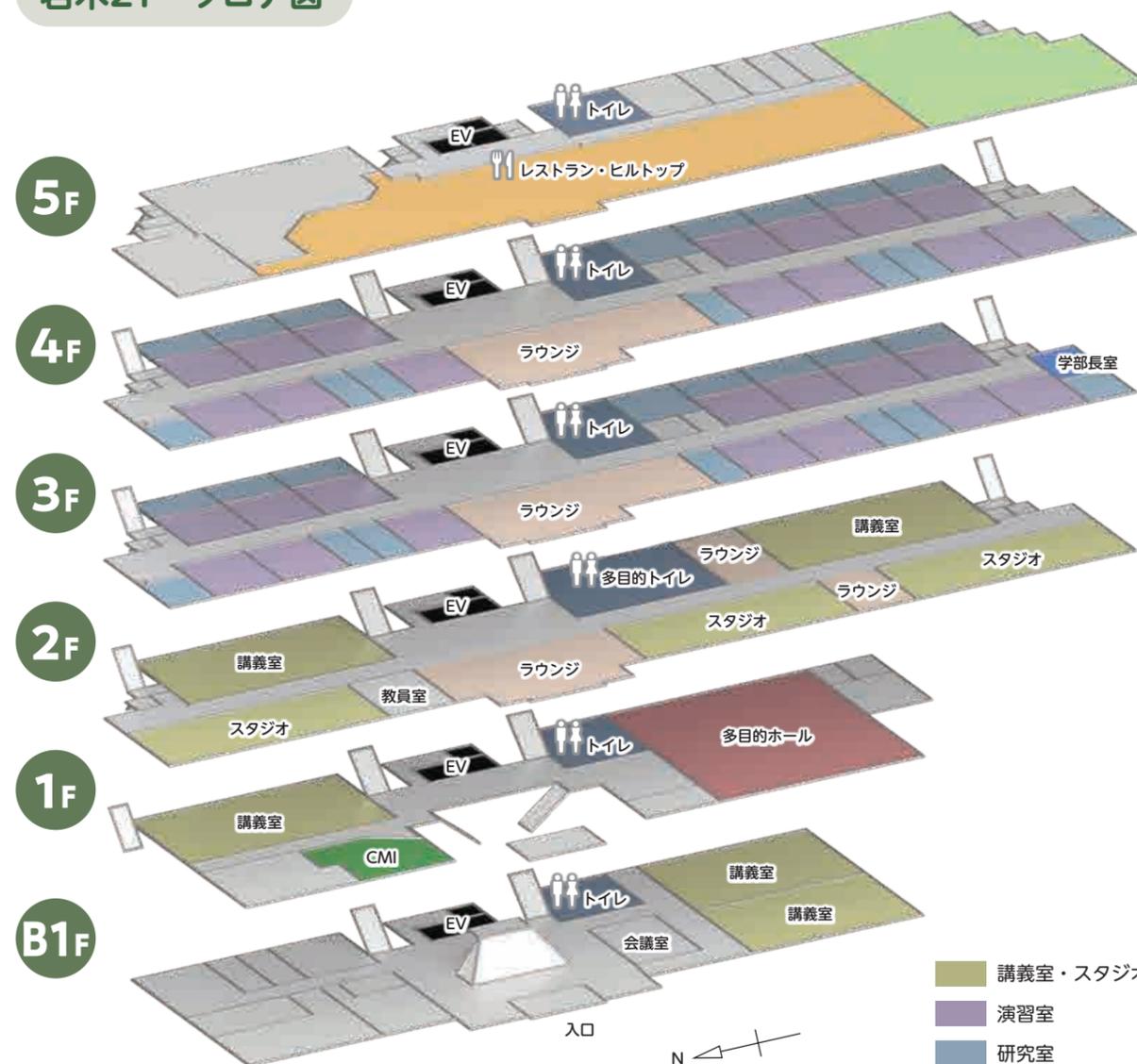


たまプラーザキャンパス

- ① 1号館
講堂/教室/理科実験室
ピアノレッスン室/音楽教室
調理実習室/図画工作室
被服実習室/リトミック室
コンピュータ教室
たまプラーザ事務課/教員室
保健室/学生相談室
教育実践総合センター
生協売店/多目的室/乳児室
観覧室/保育室
実験実習室/ICT教室
- ② 2号館
人間開発学部研究室・資料室
図書館・視聴覚ブース
カフェラウンジ「万葉の小径」
- ③ 3号館
研究室/資料室/
地域ヘルスプロモーションセンター
- ④ SPORTS SQUARE 1
アリーナ/剣道場
測定室ほか
- ⑤ 5号館
和室/アトリエ
体育系クラブ・サークルフロア
学術・文科系クラブ・サークル
フロア
音楽・演劇練習室/収蔵庫
- ⑥ 若木21
観光まちづくり学部研究室/
演習室/教室/教員室/
スタジオ/多目的ホール/CMI
スカイレストランヒルトップ
- ⑦ SPORTS SQUARE 2
- ⑧ SPORTS SQUARE 3
柔道場
トレーニングルーム
多目的ホール
ミーティングルーム
- ⑨ 青葉寮(スポーツ学寮)
- ⑩ 野球場
- ⑪ 球技場
- ⑫ テニスコート
- ⑬ 遊歩道(万葉の小径)

観光まちづくり学部の学びのメイン施設 [若木21]

若木21 フloor図



- 講義室・スタジオ
- 演習室
- 研究室



1号館



球技場から見た若木21



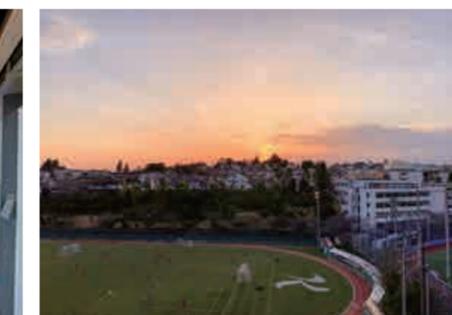
若木21エントランス



エントランスホール



ラウンジ



ラウンジからのぞむ夕日

学びのメイン施設 [若木21]

若木21は観光まちづくり学部の新設に合わせて内部をリニューアル。大型モニターなど最新設備を導入し、内装デザインにもこだわり、キャンパスライフの充実が図られました。教員や学生たちが議論し、語らい、笑い合う、そんな光景があらこちらで繰り広げられています。



講義室

スライドやパワーポイントを映す大型モニターが設置されており、オンライン授業や外部のゲストスピーカーを招くときにも対応。



演習室

全面ガラスのドアとスケルトン天井というスタイリッシュな環境の中で学ぶことができます。教員の研究室が隣接しているので質問や疑問などがあれば気軽に行けるのも特長です。

学食 5階には眺めがバツグンのスカイレストランがあります！



スカイレストラン「ヒルトップ」

素晴らしい景色を眺めながらの食事タイムはなんとも贅沢。眼下には広々とした球技場が、正面には図書館などがある2号館や緑豊かな万葉の小径などが目を楽しませてくれます。

麺メニュー
人気No.1は



まぜそば
魚介豚骨風味



休憩と自習のスペース

1号館や若木21をはじめ、キャンパス内の建物には、ところどころに休憩スペースが設けられています。また、授業以外の時間を有効活用できる自習スペースもあり、快適な学びをサポートします。



多目的ホール(若木21)

若木21の1階には全国の銘木を使った家具類を備えたホールがあります。ランチを食べたり、会話を楽しんだり、リフレッシュするのに最適な空間です。

自習スペースとコピー機

パソコン作業ができる自習コーナーは課題をこなしたり発表準備に使ったりできると学生たちに大好評。学生専用のコピー機も設置されており、適宜利用できます。



コンピュータ教室



1号館2階にあるコンピュータ教室にはパソコンが何十台も配置されています。各学生に与えられているアカウントで操作を開始。快適なネットワーク環境のもとで自主学習ができます。

図書館 [2号館] 2～4階 (4階が入口)

國學院大學の建学の精神は告諭に謳われているとおり、「本ヲ立ツル」ことにあります。それは、史資料を有効に利用した学び・探求にほかなりません。國學院大學の図書館には160万冊以上もの本が収蔵されています。たまプラーザキャンパスの図書館は1992(平成4)年、2,345㎡の広さで開館しました。



自主学習スペース

図書館では、単に本を借りるだけでなく、新聞記事や視聴覚資料などの閲覧、セルフサービスなどでのコピーなどもできます。また、静かな環境で自習できるスペースなども用意されています。



たまプラーザキャンパスの図書館は、人間開発学部の学びに関連する教育関係や絵本などが多数集められていますが、観光まちづくり学部の開設に合わせて観光やふるさと創生、民俗学などの資料の充実も図られています。本学部長の西村幸夫教授の著書も揃っています。蔵書検索システム(OPAC)で検索できるほか、貴重な資料やコレクションは「図書館デジタルライブラリー」で閲覧できます。探している本がない場合は、渋谷キャンパスやレファレンスサービスでほかの図書館などから取り寄せるサービスも提供されています。

利用ガイド

【開館時間】

9時～19時30分(月～金曜)
9時～16時30分(土曜)

詳細は図書館ホームページ

<https://www.kokugakuin.ac.jp/student/lifesupport/library>

情報メモ

利用できる 他大学の図書館

(2022年2月7日現在)

渋谷、たまプラーザ両キャンパス周辺には、國學院大學生であれば館内利用などができる図書館が多数あります。

「横浜市内大学図書館コンソーシアム」………神奈川大学図書館など12館
「山手線沿線私立大学図書館コンソーシアム」…学習院大学図書館など8館
「渋谷4大学図書館連携」………青山学院大学図書館など3館

博物館

渋谷キャンパスには國學院大學博物館があります。日本文化の講究に必要な資料を収集・保存し、学術的な研究成果を一般に公開するとともに、広く学内外の研究教育活動に資することを目的として設置されました。常設展、企画展ともに國學院大學の学生に限らず誰もが無料で観覧できます。

また國學院大學の学生は、東京国立博物館をはじめ、国立美術館(6館)について、学生証を提示するだけで、無料(所蔵作品展)ないし割引(企画展)で観覧できます。

快適なキャンパスライフのためのサポート [1号館 / SPORTS SQUARE]

授業・生活・就職支援 (1号館)

教職員が一体となり、さまざまな学生支援体制を整え、大学生活を楽しく過ごせるための環境づくりを行っています。



たまプラーザ事務課

教務や学生生活、キャリアサポートなどの窓口があり、大学生活や単位履修などを総合的に対応しています。困ったこと、わからないことなどがあった時は、気軽に相談・質問できます。



証明書発行機

就職の際など証明書の提出を求められることがあります。その場合、1号館に設置された証明書発行機で入手できます。交通費等の学割証明などの発行もできます。



キャリアサポートスペース

自分の適性や価値観などに応じた進路選択ができるよう、高い専門性をもった職員が個別相談を行っています。就職活動や進路に関する雑誌やパンフレット、求人票なども多数用意されています。

体と心の相談 (1号館)

学生一人ひとりが身体ともに健やかに大学生活を送れるよう専門スタッフがサポートしています。



保健室

常に2人以上の保健師が常駐し、学内で生じた外傷などに対して応急処置を行っています。また、必要に応じてたまプラーザ周辺の医療機関を紹介したり、健康に関する相談に応じたりもしています。



学生相談室

「大学でやりたいことが見つからない」「満足感や充実感がない」「夜眠れない」など自分一人では解決しにくい問題や悩みに、専門の訓練と経験を積んだスタッフ(臨床心理士・公認心理師・精神科医)が対応します。

國學院大學生協 (1号館地下1階)



軽食や飲み物のほか、文房具や参考書などが販売されています。授業で使用する教科書も購入できます。國學院大學オリジナルのクッキーやこくびよんのぬいぐるみなどのグッズも充実。運転免許取得や各種資格講座の申し込み、卒業式の着物・袴のレンタルなどのサービスも行っています。

スポーツ・健康づくり (SPORTS SQUARE)

國學院大學は野球や柔道、陸上など運動部の活動が盛んです。体育実技の授業や課外活動のための施設がSPORTS SQUARE(スポーツスクエア)1~3です。本格的なトレーニング機器やトレーニングルームが完備されています。



SPORTS SQUARE 3



トレーニングルーム

憩い・交流 [2号館]

散策できる「万葉の小径」(遊歩道)

キャンパス正面右手の公道沿いの歩道から2号館奥の緑地公園までの一帯は万葉集に歌われるさまざまな植物、約150種が植栽されています。植物の名とともに大伴家持らの歌が書かれたプレートも配され、万葉集に親しみながら散策できます。

(不定期開放)



学食

おいしい食事や飲み物を楽しめる

「カフェラウンジ万葉の小径」



人気No.1は



名物「鶏天丼」

さまざまなメニューを楽しめます。どれも美味しくボリューム満点。しかも栄養バランスも考えられています。万葉の小径に面したオープンテラス席では、心地よい風に包まれながらお茶や食事を楽しめます。

一人暮らしのサポート [学寮]

國學院大學では、親元を離れて一人暮らしをする学生が、安心かつ安定した学生生活を送る環境を提供するため、東急田園都市線沿線に男女それぞれの寮をもっています。たまプラーザキャンパスだけでなく、渋谷キャンパスへのアクセスも便利です。寮には留学生もおり、共に生活しながら異文化理解を深めることもできます。

●学寮 常磐木 (女子寮)

食堂や学習室、会議室、ランドリーなどの共用設備が揃っています。各部屋でのインターネット接続も可能です。



たまプラーザ
まで18分

所在地 横浜市青葉区荏田町434-1
最寄駅 東急田園都市線江田駅徒歩8分
入寮定員 一人部屋 114名
寮費 月額70,000円(電気料金とインターネット使用料込)
食費(参考) 月額18,480円(朝夕2食) 土日祝日を除く21日換算

●学寮 まほろば (男子寮)

食堂や大浴場や、ランドリー、IHキッチンコーナーなどがあり、玄関はオートロック、インターネット接続も可能です。



たまプラーザ
まで15分

所在地 川崎市宮前区宮崎1-6-15
最寄駅 東急田園都市線宮崎台駅徒歩5分
入寮定員 一人部屋 72名
寮費 月額62,300~67,300円(月~土曜夕食込)

※学寮の詳細は、渋谷キャンパス学生事務部学生生活課へお問い合わせください。電話：03-5466-0145 E-Mail：gakusei_s@kokugakuin.ac.jp

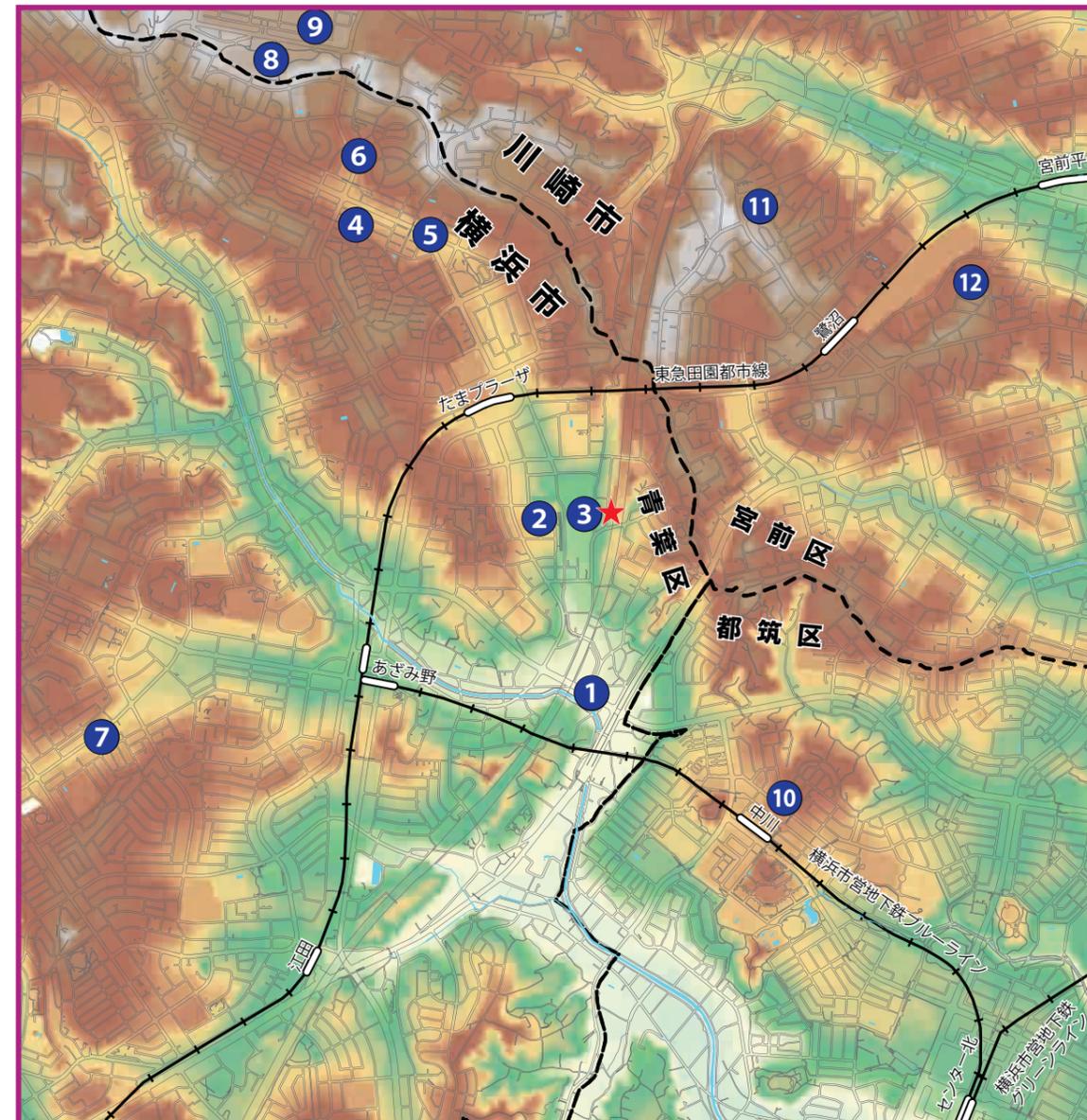
地形図で見るたまプラーザキャンパス

たまプラーザキャンパスのある横浜市青葉区は、東を都筑区、西を町田市、南を緑区、北を川崎市に接しています。その面積は35.06km²。横浜市内では戸塚区に次ぐ広さです。

横浜といえば、「港」や「海」をイメージするかもしれませんが、「丘」や「坂」をイメージできるのも特長です。青葉区は、多摩丘陵の東端に位置し、海拔高度が高く、起伏に富んだ地形となっています。区の中央部を流れる鶴見川をはじめ、早瀬川や恩田川などのいくつもの河川が丘陵を分断・削剝して谷底低地を樹枝状に形成しており、かつては台地と低地の織りなす緑豊かな里山景観が広がっていました。

造成・宅地化が進んだ現在でも、まちを歩いたり、公園や緑地を散策したりすると、その地形や景観を感じ取ることができます。たまプラーザキャンパスも、野球場や競技場のある低地、1号館や若木21などのある台地からなります。1号館と2号館の階数のズレも、横浜の「丘」「坂」を象徴しています。

- ①早瀬川 ②國學院大學たまプラーザキャンパス・万葉の小径 ③桜並木 ④美しが丘 ⑤100段階段
- ⑥クルドサック ⑦桜通り ⑧菅生緑地 ⑨川崎市中央卸売市場北部市場 ⑩中川 花と緑の散歩道
- ⑪鷺沼北公園(梵天山) ⑫東京メトロ鷺沼車両基地



★若木21
 15 90 0 0.5 1 km

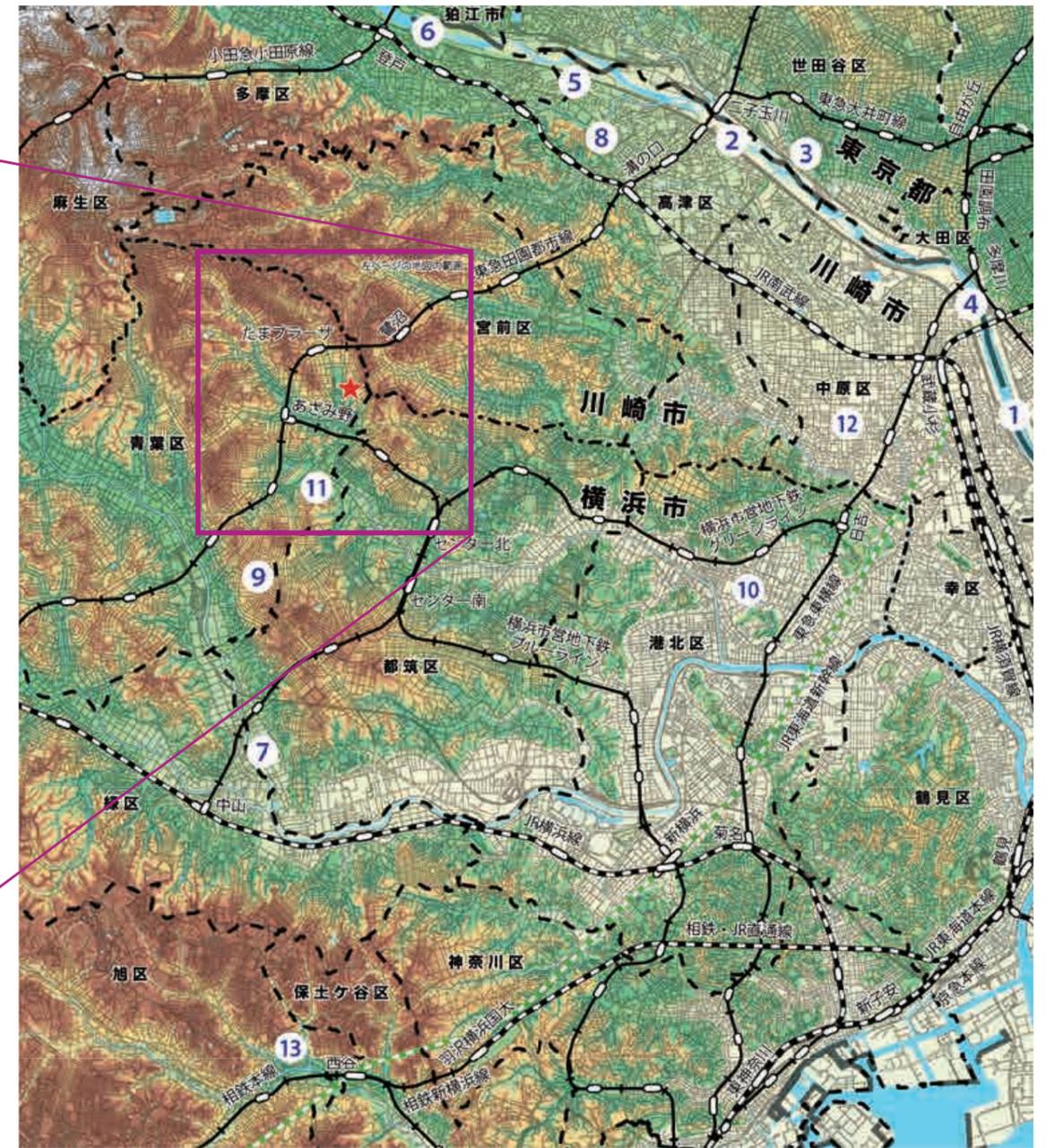


この地形図は、地理情報システム(GIS)を利用して本学教員が作成したものです。

地形図をじっくり見たら、次は現地を歩いてみるのが、「観光まちづくり」への一歩です。自分で情報を調べつつ、キャンパス周辺を散歩・散策してみましょう。また、GISを使って色々な地図を作ってみるのも良いでしょう。QGISという、無料のGISもあります。

いろいろなことが発見できるかもしれません。

- ①多摩川 ②二子橋 ③等々力渓谷 ④多摩川浅間神社・丸子の渡し ⑤宇奈根の渡し ⑥登戸の渡し
- ⑦鶴見川 ⑧津田山 ⑨鎌倉街道・中道 ⑩鎌倉街道・下道
- ⑪矢倉沢往還(大山街道・厚木街道・国道246号) ⑫多摩川低地 ⑬帷子川



★若木21
 0 120 0 1 2 4 km

入学者受け入れ方針 ～アドミッション・ポリシー～

観光まちづくり学部では、以下のような学生を受け入れます。

- ・観光・交流を通じた持続可能な地域の形成や振興に関する学問的な基礎を学びたいという意欲がある者。
- ・上記の学問的な基礎をもとに、地域社会の再生、活性化及びまちづくりに貢献したいという意欲がある者。
- ・既存分野の壁を越えて能動的に学ぶ向上心を保持し、積極的に地域に働きかけようという意欲がある者。

上記の方針に基づき、以下の観点で入学希望者を審査します。

- 【AP1】本学部で学ぶ分野に関する教科・科目について、高等学校卒業程度の基礎学力を備えているか。
 【AP2】地域社会やその持続可能性に対して問題意識を持ち、論理的に考え、自分の考えを表現するための基礎的な力を持っているか。
 【AP3】自身の興味・関心にしたいが、主体的に活動に取り組み、またはその成果について第三者からの評価を得ているか。

入学までに身につけるべき教科・科目

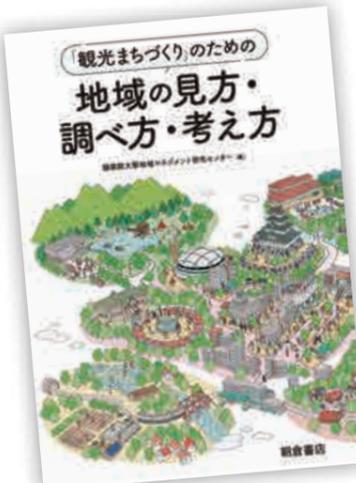
「国語」「数学」「外国語(「英語コミュニケーションⅠ、Ⅱ、Ⅲ」、「論理・表現Ⅰ」)を中心とした基礎学力を前提に、「地理歴史」「公民」「理科」「情報」の中から幅広く学習していること。

一般選抜入学試験制度について

	V方式(大学入学共通テスト利用入試)		A日程			B日程
	3教科型	5教科型	3教科型	得意科目重視型	学部学科特色型	
試験日	1/18(土)・1/19(日)		2/2(日)	2/3(月)	2/4(火)	3/2(日)
概要	大学入学共通テストの成績のみで判定		本学独自の個別入学試験のみで判定(オールマークセンス方式)日程により判定方法の異なる3タイプの入試			<ul style="list-style-type: none"> ・本学独自の個別入学試験のみで判定 ・数学は記述式、その他はオールマークセンス方式 ・英語検定試験スコア利用可能
教科・科目	必須:「外国語」から1科目 選択:「国語」「地理歴史」「公民」「数学」「理科」「情報」の6教科から2科目(「理科」で「理科①」を選択した場合は3科目)	必須:「外国語」から1科目 選択:「国語」「地理歴史」「公民」「数学」「理科」「情報」の6教科から4科目(「理科」で「理科①」を選択した場合は5科目)	以下3科目による受験。(いずれも必須) ・「外国語」 ・「選択科目(歴史総合日本史探究、歴史総合世界史探究、公共・政治経済、数学Ⅰ、数学A(図形の性質・場所の数と確率)、数学Ⅱ、数学B(数列・統計的な推測)、数学C(ベクトル))」 ・「国語」または「理科(物理基礎・物理、化学基礎・化学、生物基礎・生物から試験当日に択一)」			以下2科目による受験。 必須:「外国語」 選択:「国語(近代以降の文章)」または「数学(数学ⅠA)」から1科目

※詳細は、大学ホームページの入試情報をご確認ください。

	入学試験制度	選考方法	AP1	AP2	AP3	本入試制度の狙い
一般選抜	A日程	個別学力試験	◎	○		高等学校で履修する科目について、高等学校卒業相当の学力を持つ学生を受け入れます。
	B日程	個別学力試験	◎	○		
	V方式	大学入学共通テスト	◎	◎		
総合型選抜	公募制自己推薦(AO型)	調査書	◎		○	観光まちづくり学部での学修に必要な能力・資質と意欲を持つ受験生を、第1次選考(調査書、志望理由書、活動レポート、観光まちづくり学部独自課題に基づく書類選考)、第2次選考(観光まちづくり学部独自課題の説明及び第1次選考提出書類に基づく質疑)の2段階で総合的に選考します。
		志望理由書		◎	○	
		活動レポート		○	◎	
		地域分析レポート	◎	◎		
		解決策提案シート	○	◎		
	面接試験		◎	○		
	観光まちづくり学部特別選考	調査書	◎		○	観光まちづくり学部での学修に必要な能力・資質と意欲を持つ受験生を総合的に選考します。
		志望理由書		◎	○	
		個別学力試験/大学入学共通テストの成績	◎	○		
	外国人留学生入学試験	志望理由書		◎	○	観光まちづくり学部での学修に必要な能力・資質と意欲を持つ受験生で、外国籍であり、日本の高等学校卒業相当の学力を持つ者を、第1次選考(書類選考)、第2次選考(面接試験)の2段階で総合的に選考します。
活動レポート			○	◎		
日本語小論文		○	○			
面接試験			◎	○		
院友子弟等特別選考	調査書	◎		○	院友子弟等を対象とし、観光まちづくり学部での学修に必要な能力・資質と意欲を持つ受験生を総合的に選考します。	
	志望理由書		◎	○		
	活動レポート		○	◎		
	課題図書に基づくレポート	◎	○			
	地域分析レポート	◎	◎			
	解決策提案シート	○	◎			
面接試験		◎	○			



「観光まちづくり」のための 地域の見方・ 調べ方・考え方

國學院大學地域マネジメント研究センター [編]
朝倉書店、2023年3月

「観光まちづくり」の入門テキストとして、編集委員長の西村幸夫学部長をはじめ、さまざまな専門分野の本学部教員16名が執筆に携わりました。本書は「地域を見つめる」(調査)と「地域を動かす」(実践)の二部構成となっており、観光まちづくりの実践スキルや提案力を養う内容となっています。また、図表や写真を多用し、各教員が研究している具体的な事例を分かりやすく紹介している点も特徴です。観光まちづくりに興味をお持ちの方、これから観光まちづくりを学びたい方にとって、本書は必ず役立つ一冊です。